

資料 1 - 2

都府県単位 ニホンジカの
個体数推定及び将来予測の結果



1. 個体数推定の結果

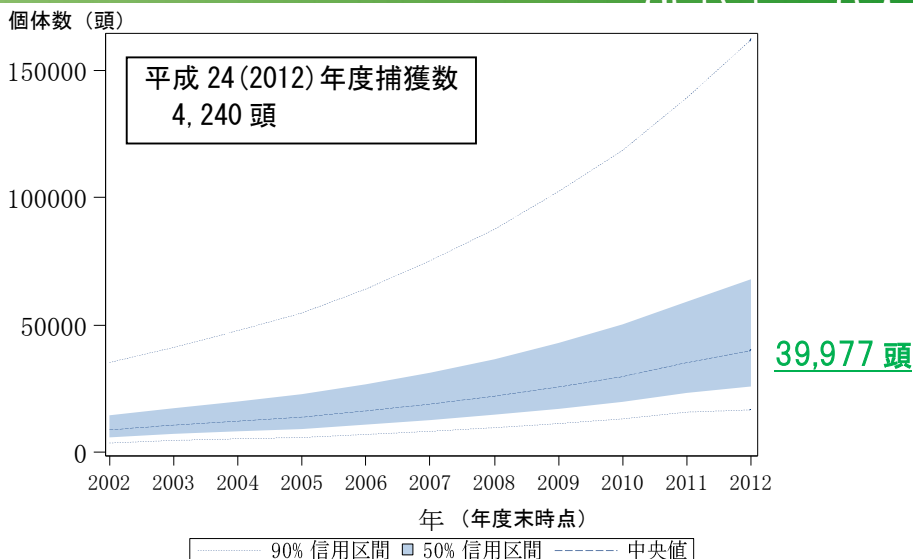
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 39,977 頭

[90%信用区間 16,691~162,175 頭]
[50%信用区間 25,929~68,065 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで岩手県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 40,579 頭、90%信用区間 12,526~183,363 頭、50%信用区間 23,735~73,831 頭。



2. 将来予測の結果

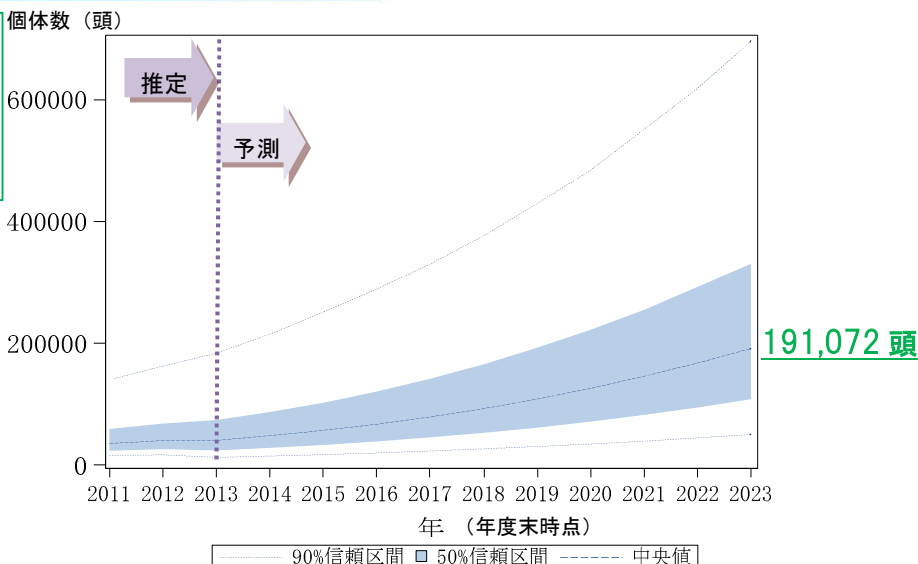
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 191,072 頭

[90%信頼区間 50,048~694,894 頭]
[50%信頼区間 107,719~330,016 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

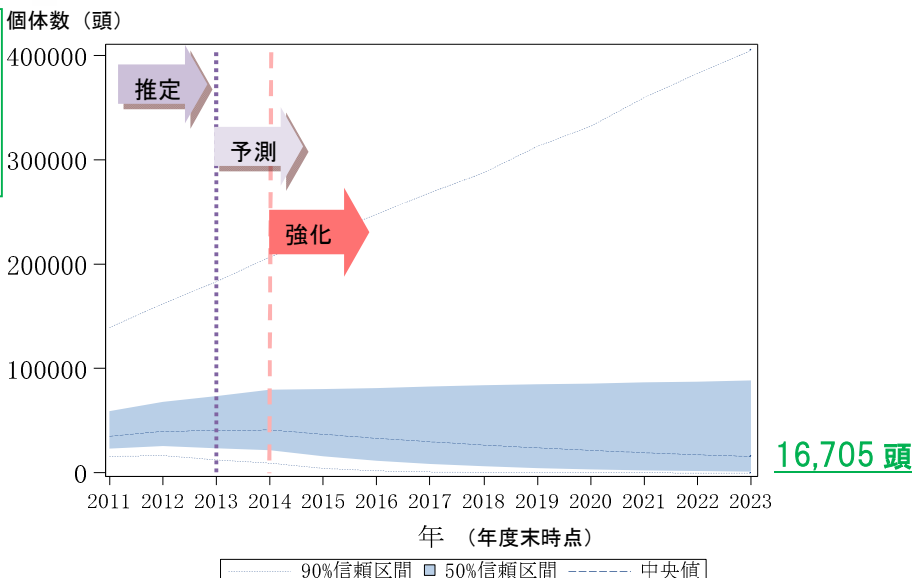
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 16,705 頭

[90%信頼区間 44~398,371 頭]
[50%信頼区間 1,873~86,357 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 5.3 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

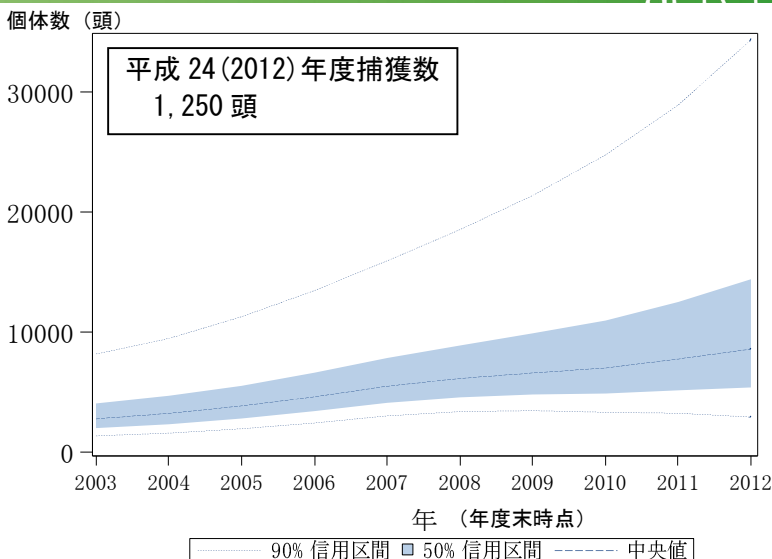
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 8,596 頭

[90%信用区間 2,936~34,347 頭]
[50%信用区間 5,389~14,416 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで宮城県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 10,039 頭、90%信用区間 2,801~40,927 頭、50%信用区間 6,034~17,163 頭。



8,596 頭

2. 将来予測の結果

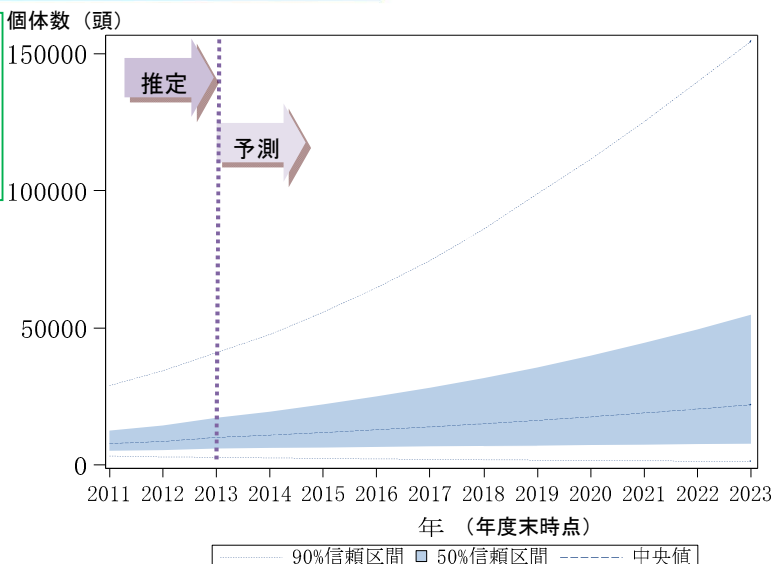
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 21,942 頭

[90%信頼区間 1,289~154,330 頭]
[50%信頼区間 7,756~54,757 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



21,942 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

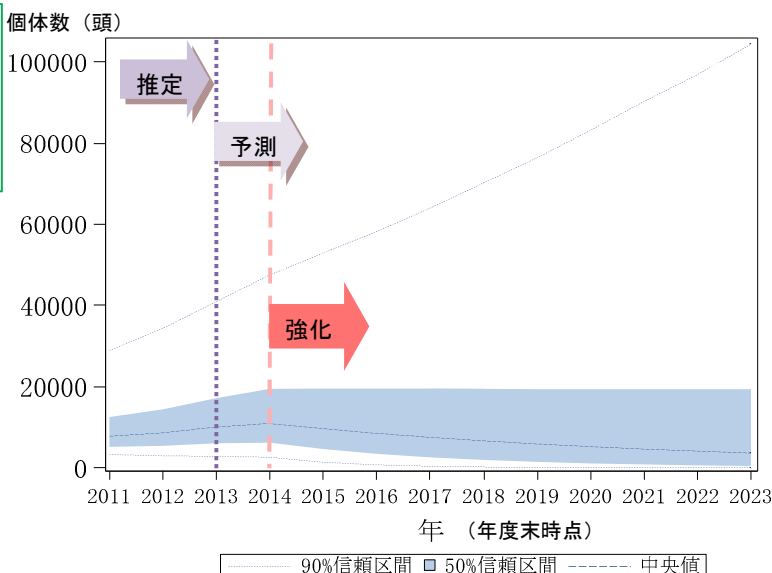
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 3,618 頭

[90%信頼区間 8~104,377 頭]
[50%信頼区間 446~19,324 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.9 倍を維持すると半減すると予測された。



3,618 頭



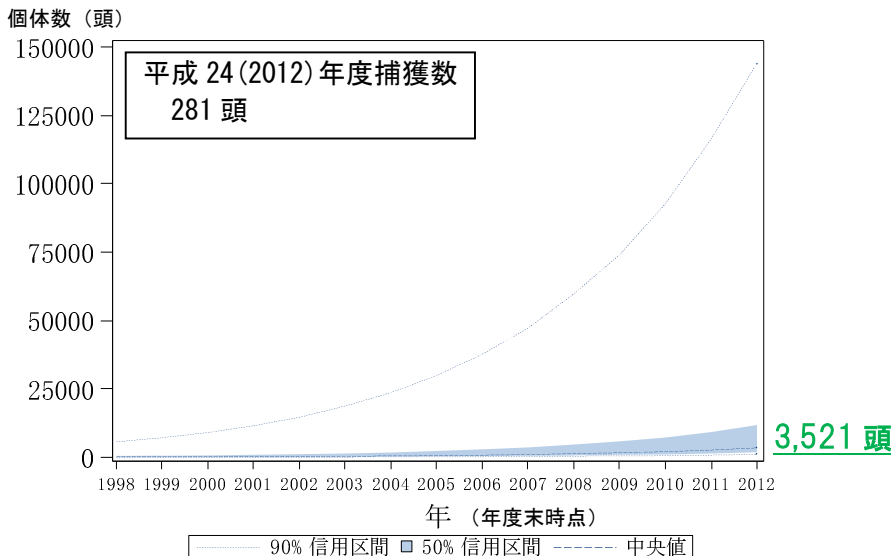
1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 3,521 頭

[90%信用区間 1,119~144,089 頭]
[50%信用区間 1,887~11,824 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで福島県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。



2. 将来予測の結果

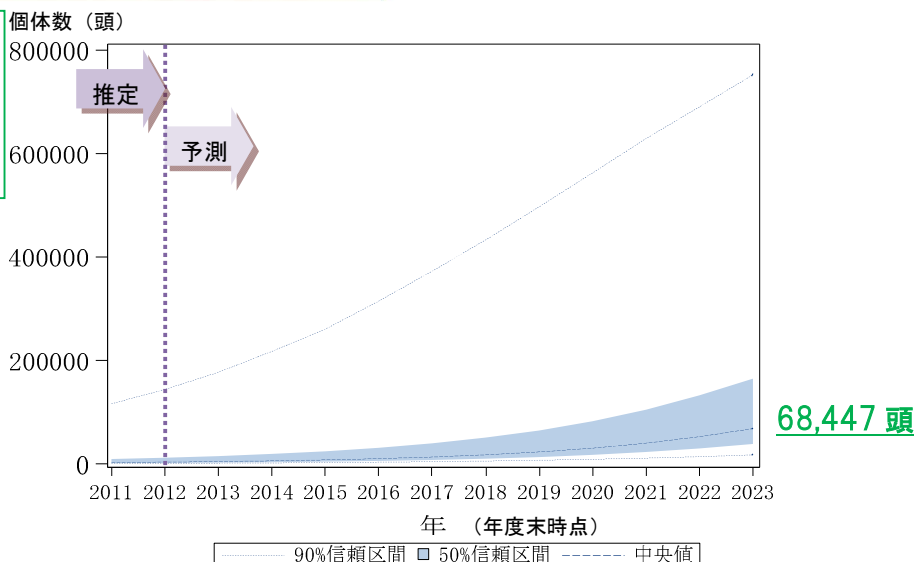
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 68,447 頭

[90%信頼区間 17,516~752,262 頭]
[50%信頼区間 38,381~164,968 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

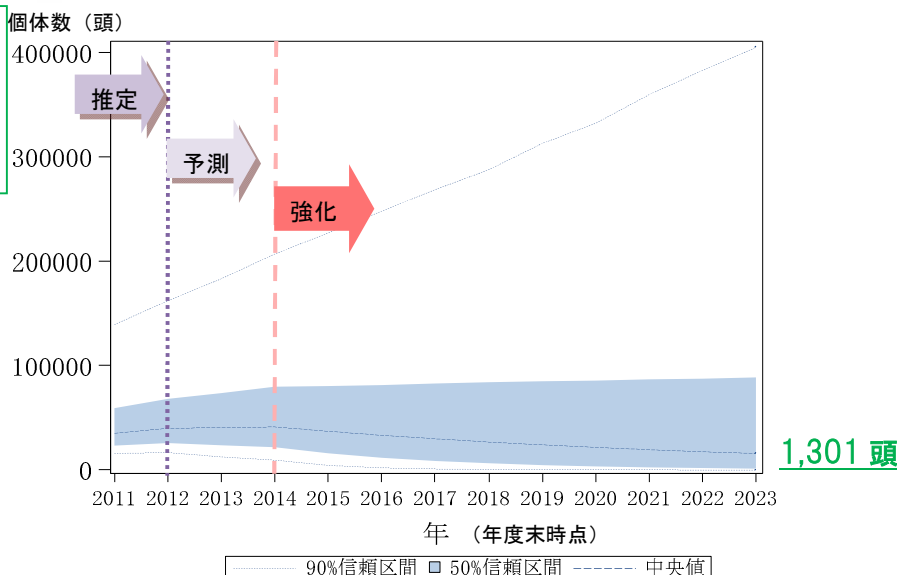
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 1,301 頭

[90%信頼区間 0~700,284 頭]
[50%信頼区間 7~56,095 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 8.0 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

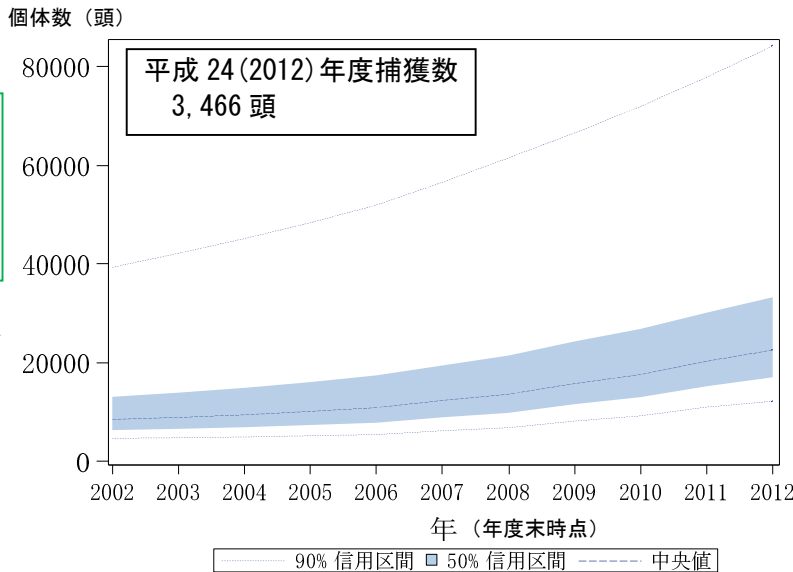
中央値 22,551 頭

[90%信用区間 12,166~84,180 頭]

[50%信用区間 17,033~33,242 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで栃木県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 23,605 頭、90%信用区間 11,933~88,473 頭、50%信用区間 17,509~35,260 頭。



22,551 頭

2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

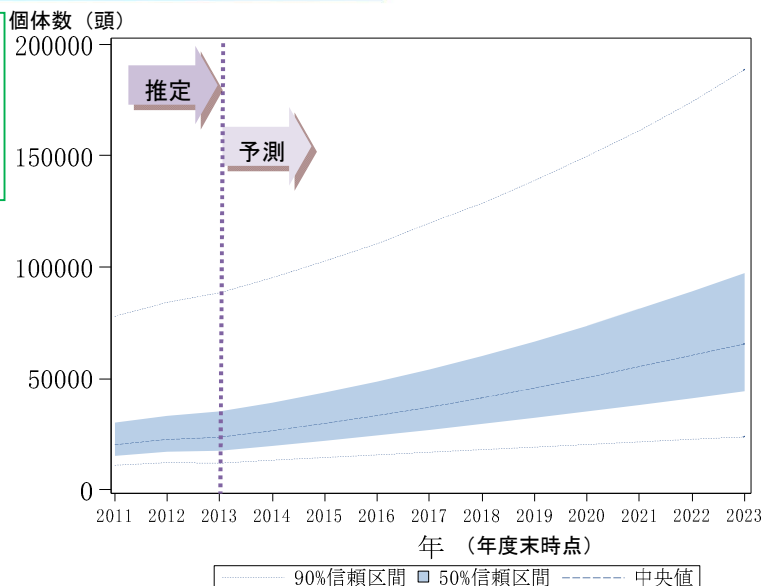
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 65,520 頭

[90%信頼区間 23,729~188,707 頭]

[50%信頼区間 44,206~97,359 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



65,520 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

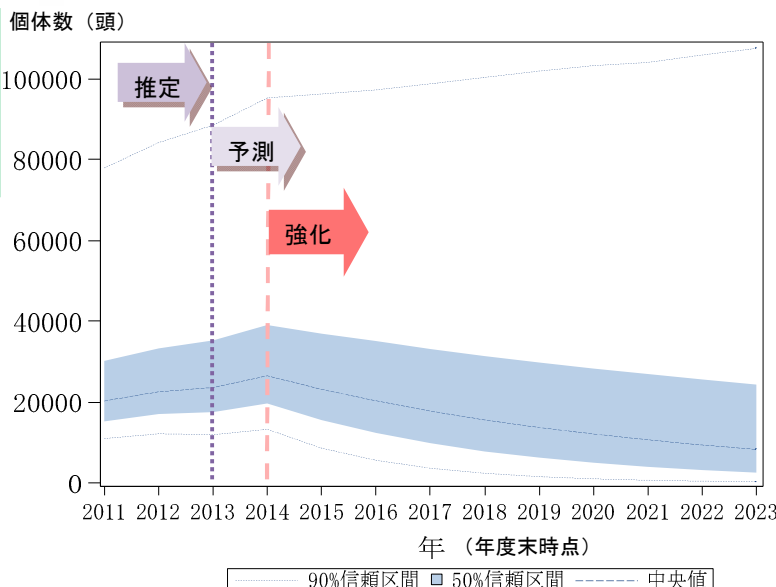
中央値 9,778 頭

[90%信頼区間 430~110,976 頭]

[50%信頼区間 3,265~26,833 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.4 倍を維持すると半減すると予測された。



9,778 頭



1. 個体数推定の結果

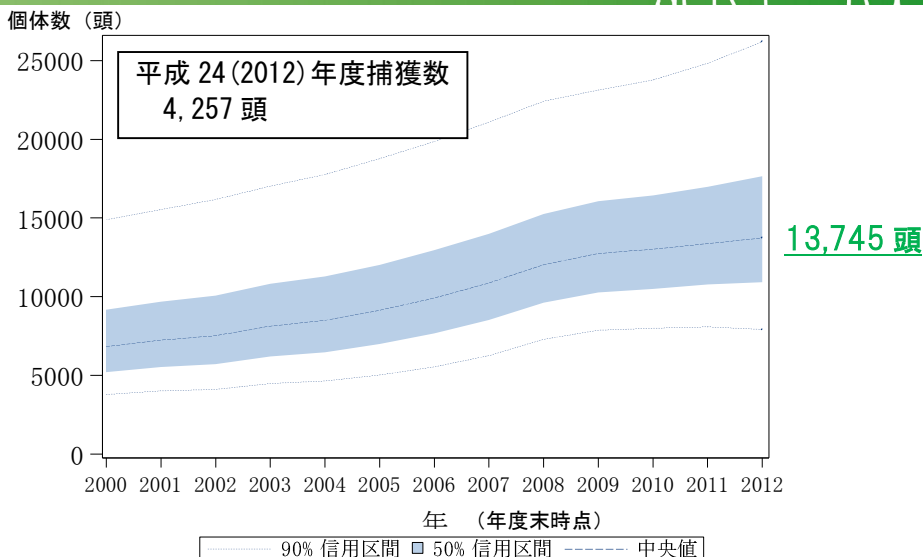
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 13,745 頭

[90%信用区間 7,934~26,208 頭]
[50%信用区間 10,934~17,663 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで群馬県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 12,786 頭、90%信用区間 5,997~26,460 頭、50%信用区間 9,523~17,141 頭。



2. 将来予測の結果

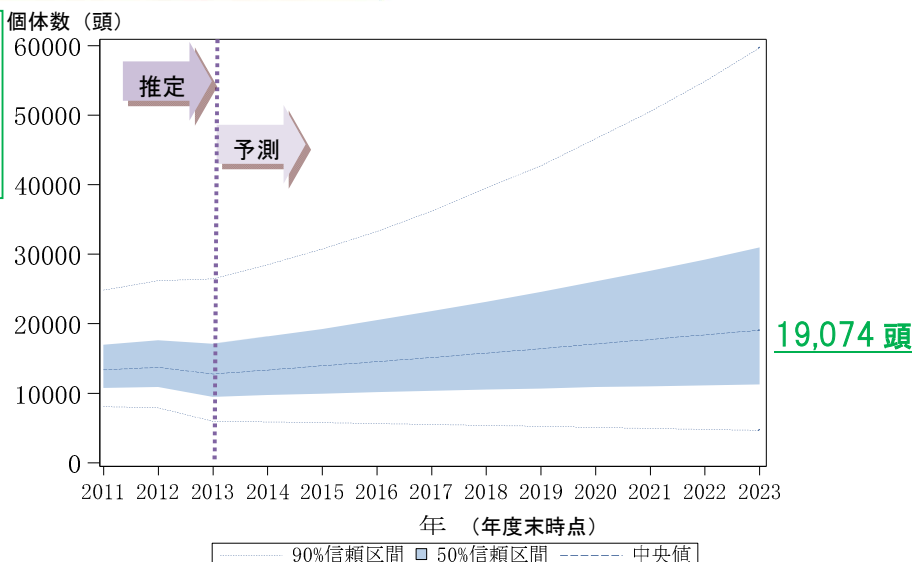
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 19,074 頭

[90%信頼区間 4,689~59,683 頭]
[50%信頼区間 11,301~30,970 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

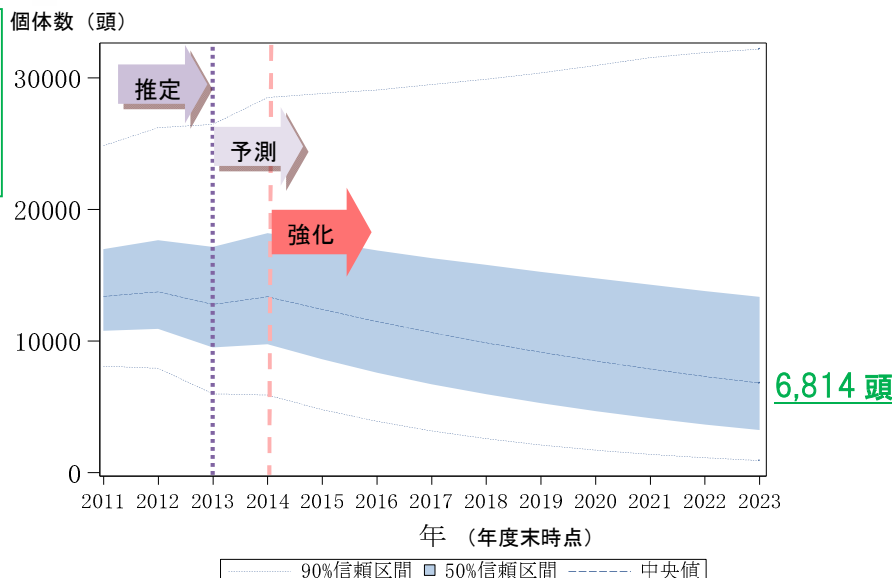
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 6,814 頭

[90%信頼区間 928~32,173 頭]
[50%信頼区間 3,241~13,361 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.5 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

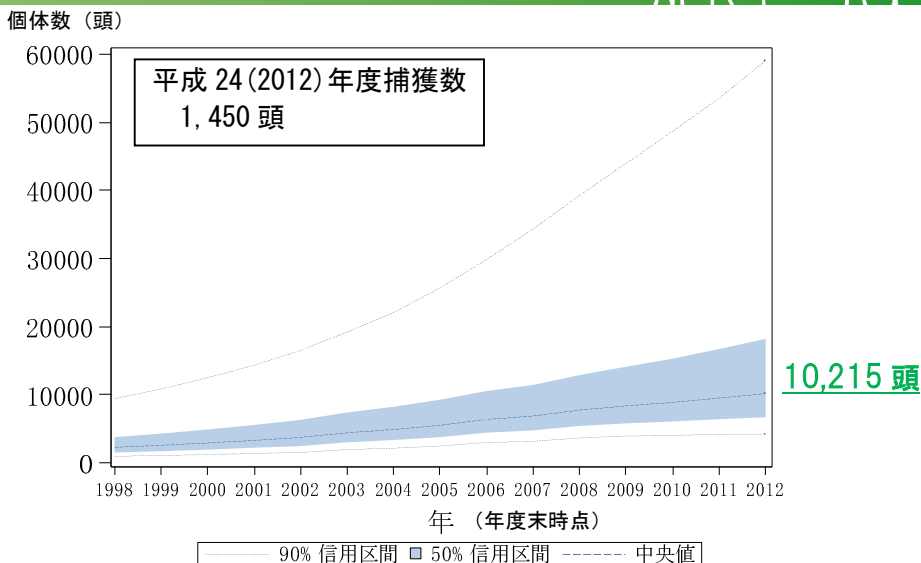
中央値 10,215 頭

[90%信用区間 4,287~59,084 頭]

[50%信用区間 6,714~18,247 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで埼玉県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 11,064 頭、90%信用区間 4,436~64,403 頭、50%信用区間 7,128~20,110 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

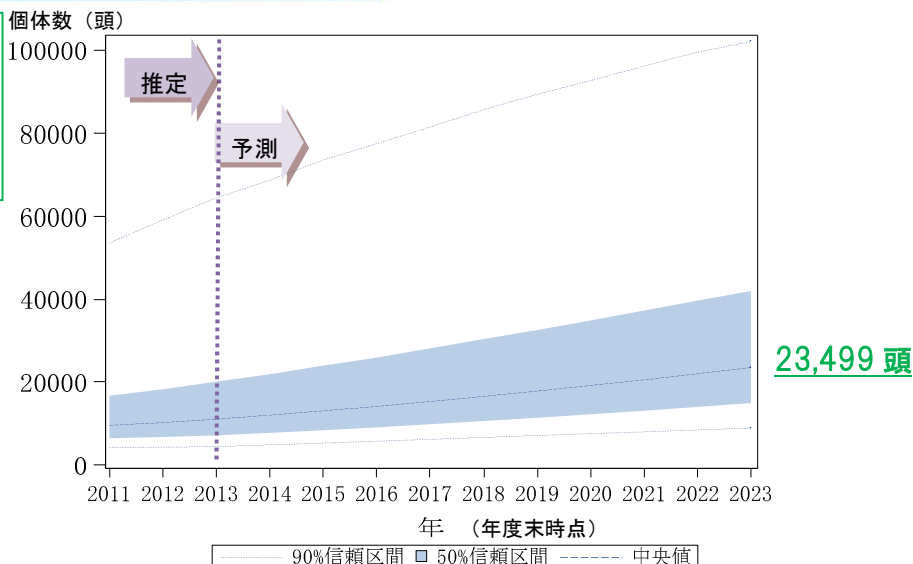
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 23,499 頭

[90%信頼区間 8,909~102,132 頭]

[50%信頼区間 14,902~41,909 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

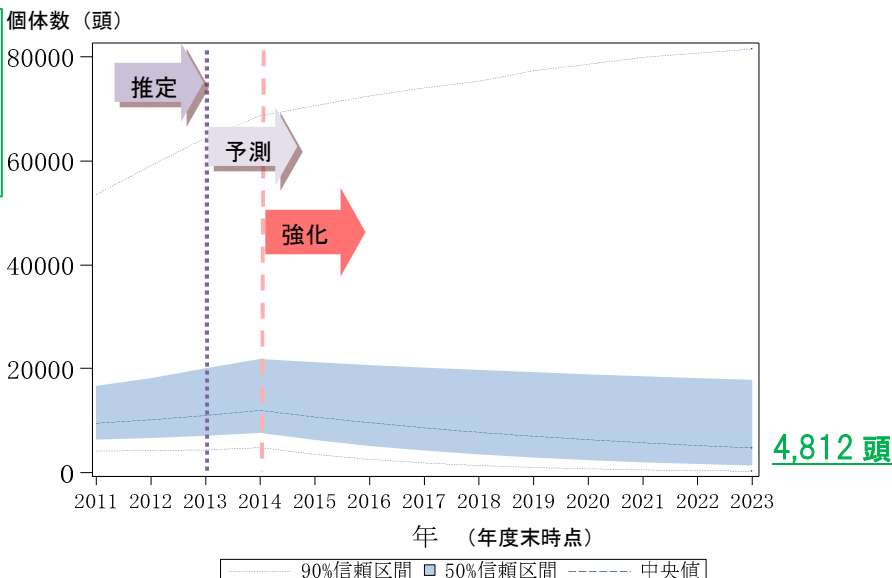
中央値 4,812 頭

[90%信頼区間 330~81,492 頭]

[50%信頼区間 1,422~17,913 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.4 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

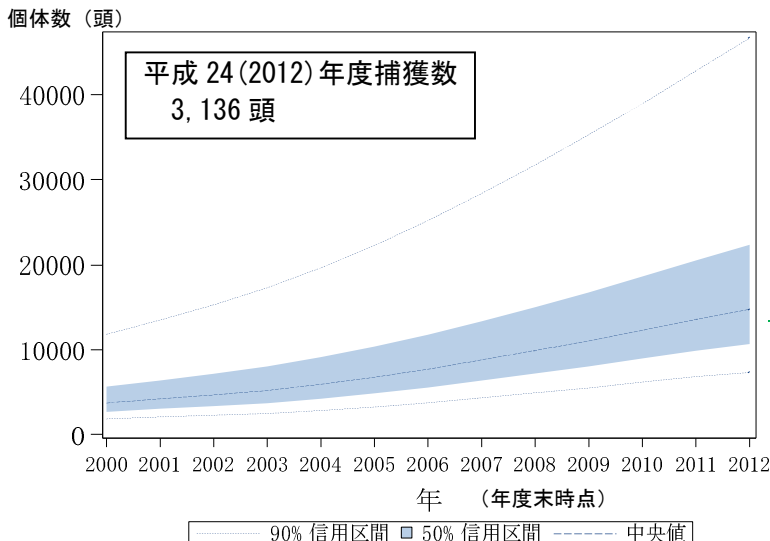
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 14,736 頭

[90%信用区間 7,307~46,624 頭]
[50%信用区間 10,666~22,314 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで千葉県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 15,690 頭、90%信用区間 7,485~50,435 頭、50%信用区間 11,199~23,957 頭。



14,736 頭

2. 将来予測の結果

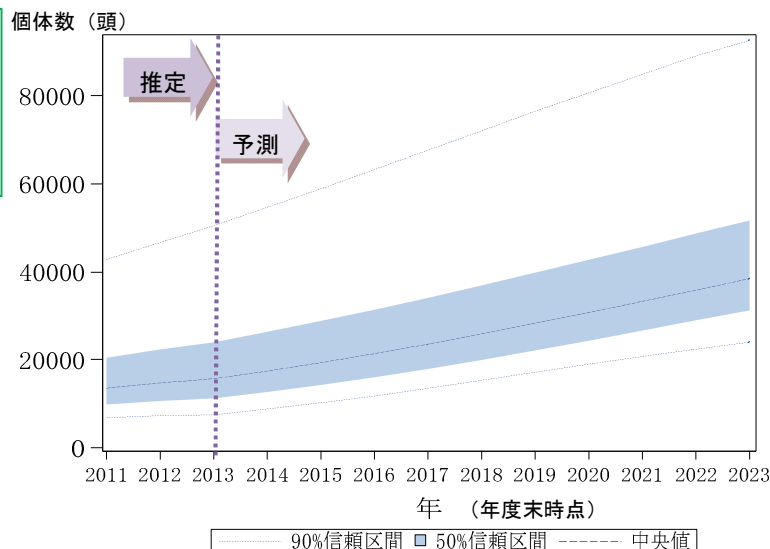
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 38,419 頭

[90%信頼区間 23,961~92,501 頭]
[50%信頼区間 31,211~51,662 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



38,419 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

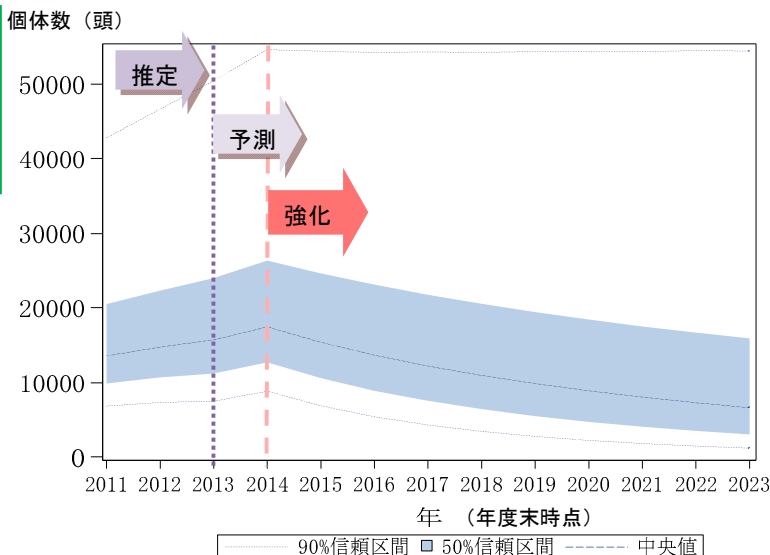
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 6,612 頭

[90%信頼区間 1,187~54,421 頭]
[50%信頼区間 3,023~15,920 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.4 倍を維持すると半減すると予測された。



6,612 頭



1. 個体数推定の結果

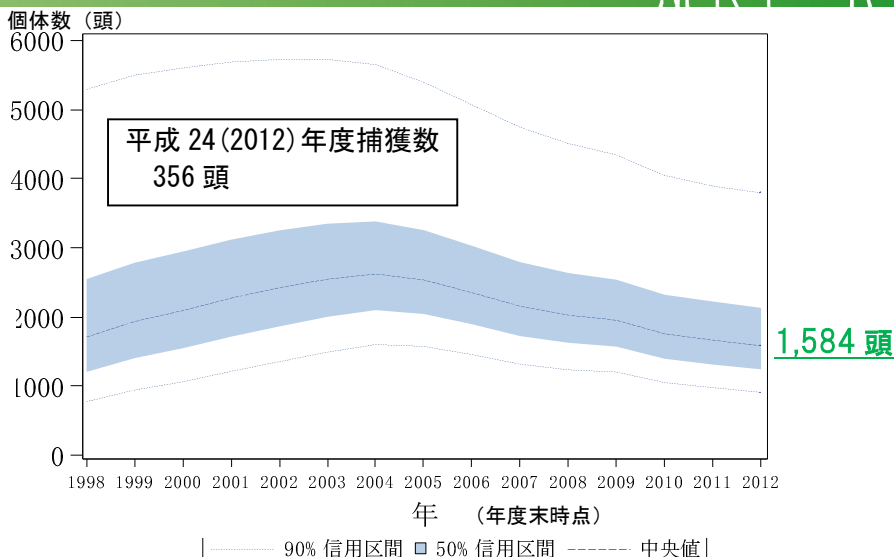
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 1,584 頭

[90%信用区間 911~3,795 頭]
[50%信用区間 1,241~2,132 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで東京都で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 1,536 頭、90%信用区間 846~3,743 頭、50%信用区間 1,180~2,076 頭。



2. 将来予測の結果

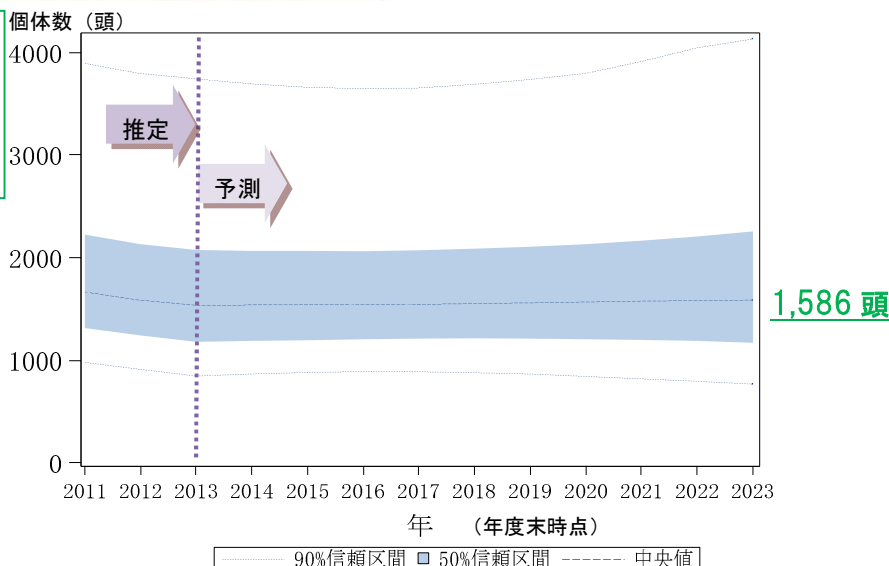
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 1,586 頭

[90%信頼区間 767~4,132 頭]
[50%信頼区間 1,171~2,255 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

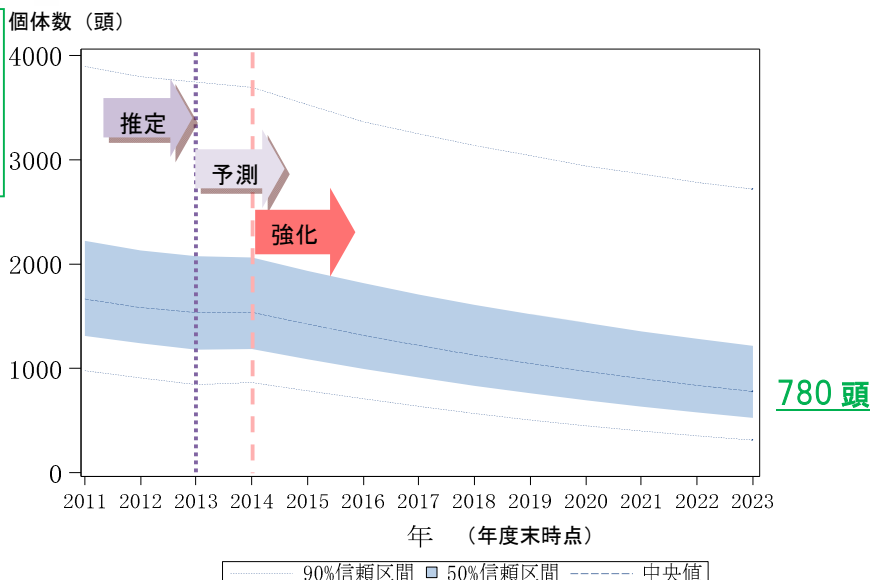
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 780 頭

[90%信頼区間 314~2,718 頭]
[50%信頼区間 527~1,218 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、都で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.4 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

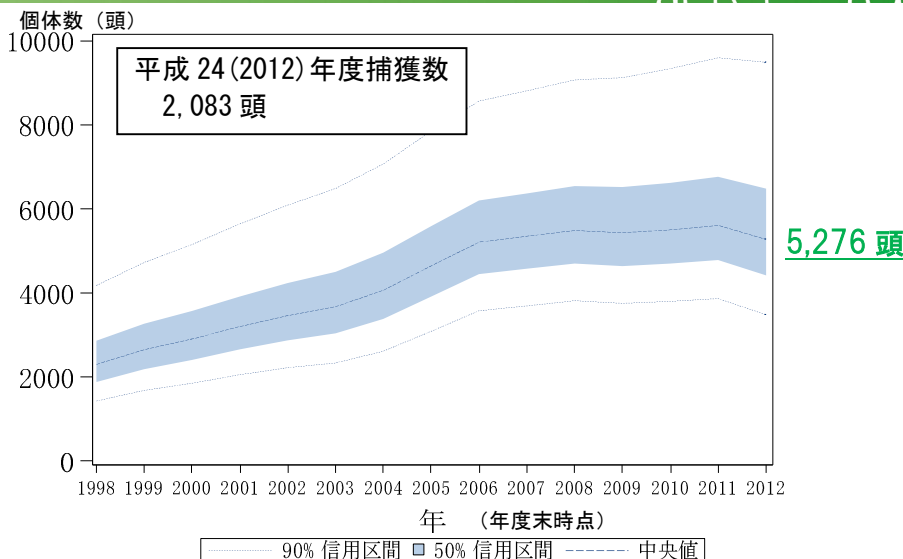
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 5,276 頭

90%信用区間 3,483~9,491 頭
50%信用区間 4,419~6,482 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで神奈川県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 4,890 頭、90%信用区間 2,945~9,390 頭、50%信用区間 3,962~6,172 頭。



2. 将来予測の結果

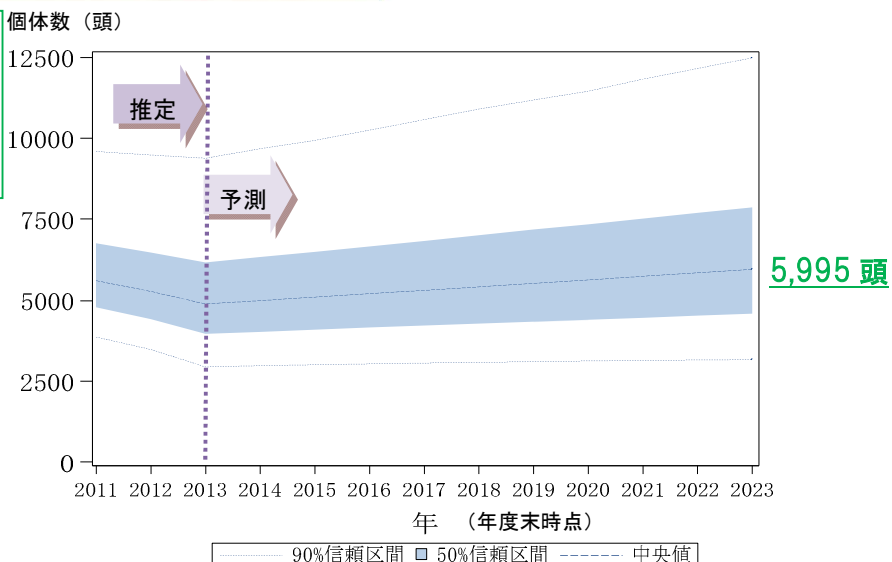
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 5,995 頭

90%信頼区間 3,170~12,496 頭
50%信頼区間 4,592~7,874 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

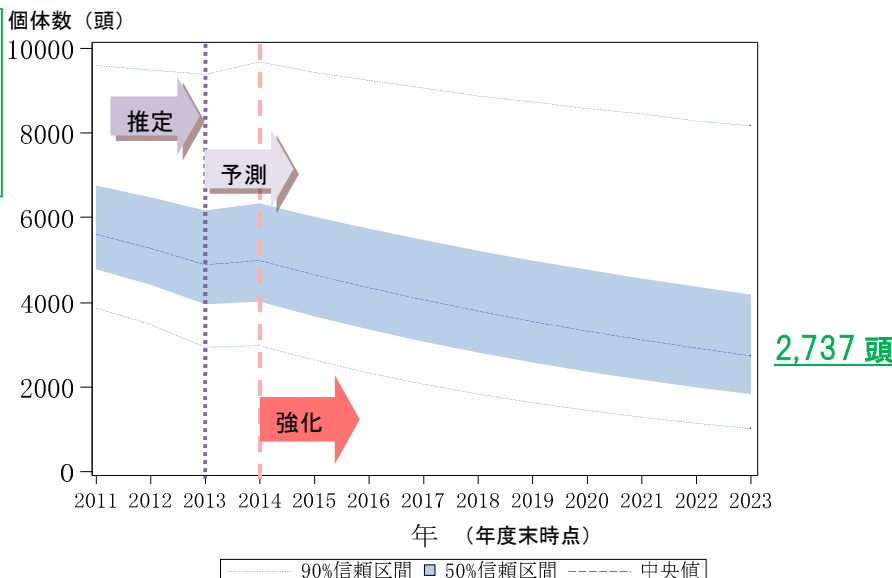
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 2,737 頭

90%信頼区間 1,020~8,173 頭
50%信頼区間 1,831~4,183 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.3 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

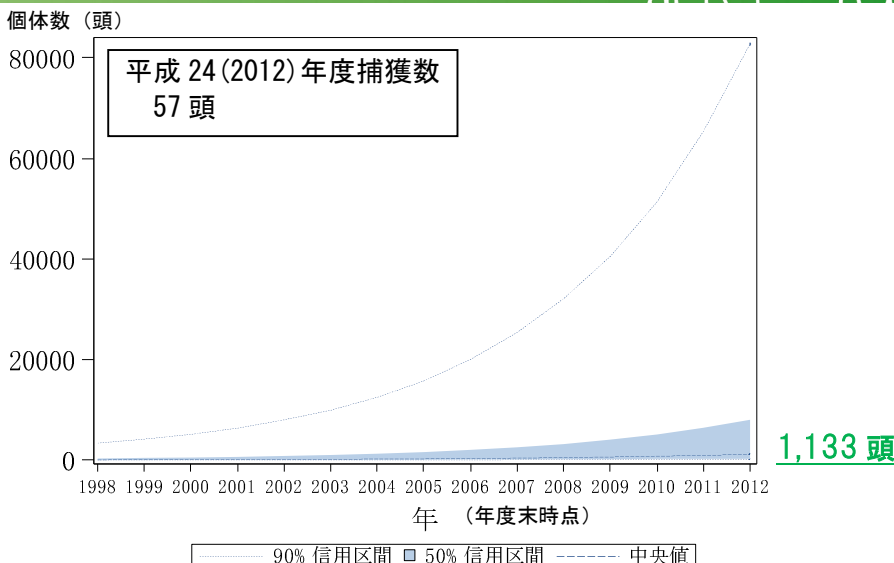
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 1,133 頭

[90%信用区間 86~82,759 頭]

[50%信用区間 273~8,022 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで新潟県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

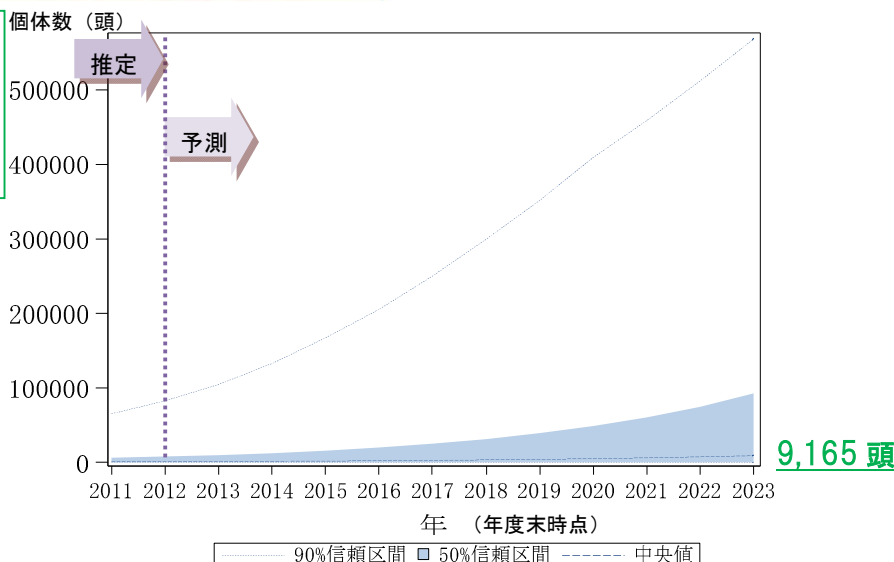
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 9,165 頭

[90%信頼区間 39~567,642 頭]

[50%信頼区間 677~92,548 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

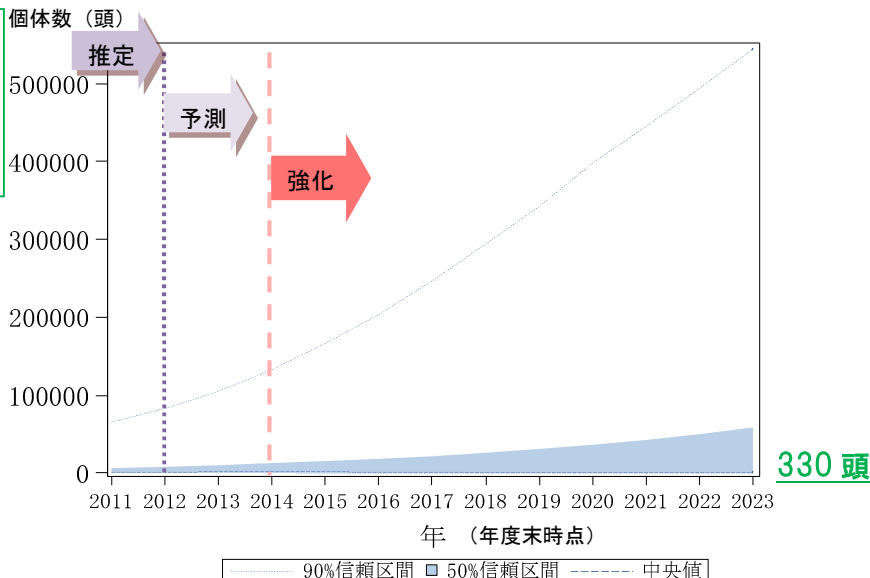
中央値 330 頭

[90%信頼区間 0~544,413 頭]

[50%信頼区間 0~58,305 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 6.4 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

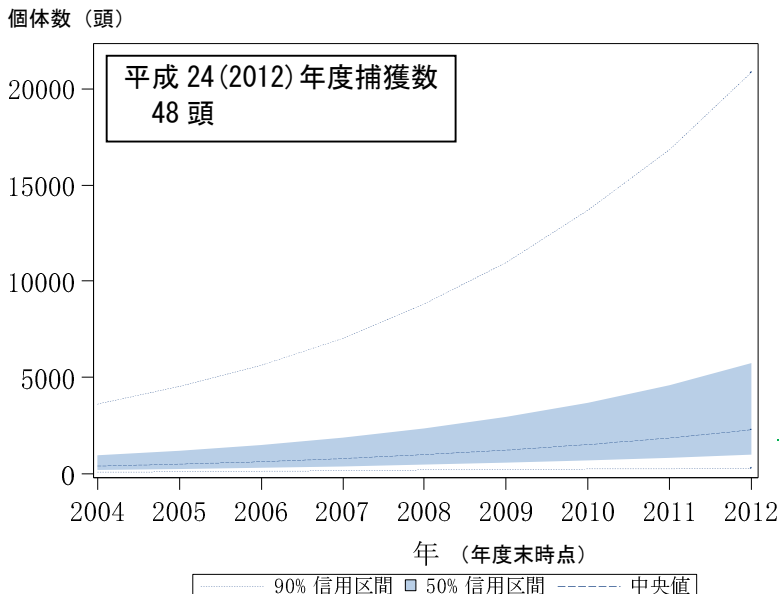
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 2,294 頭

[90%信用区間 295~20,846 頭]
[50%信用区間 1,010~5,757 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで富山県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 2,878 頭、90%信用区間 341~25,795 頭、50%信用区間 1,246~7,235 頭。



2,294 頭

2. 将来予測の結果

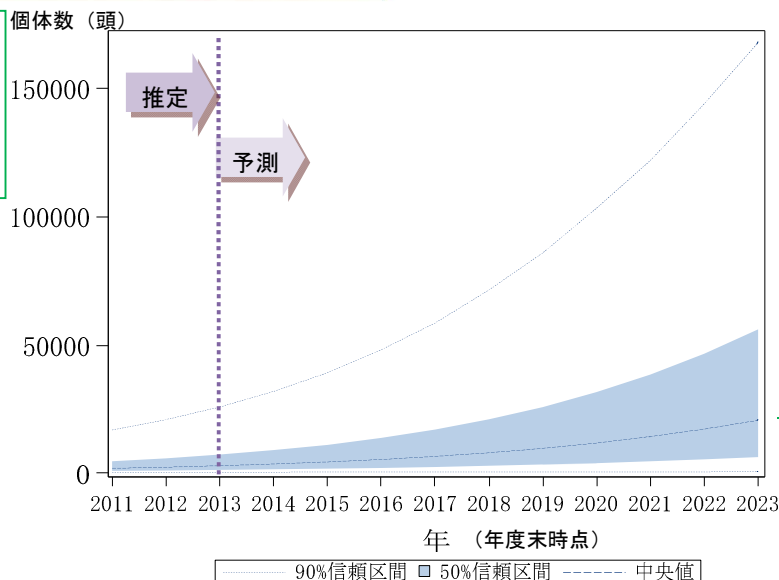
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 20,569 頭

[90%信頼区間 507~167,870 頭]
[50%信頼区間 6,231~56,092 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



20,569 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

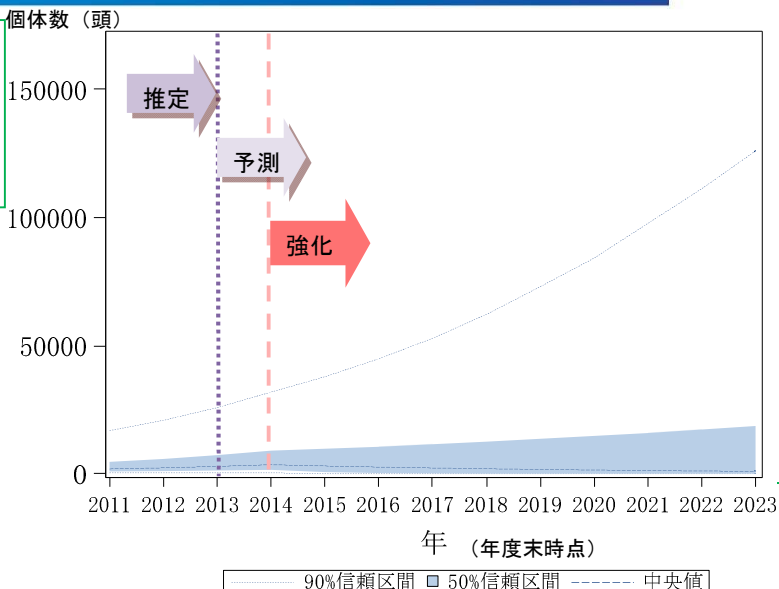
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 930 頭

[90%信頼区間 0~125,901 頭]
[50%信頼区間 0~18,643 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23 (2011) 年度の捕獲率の 10.8 倍を維持すると半減すると予測された。



930 頭



1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

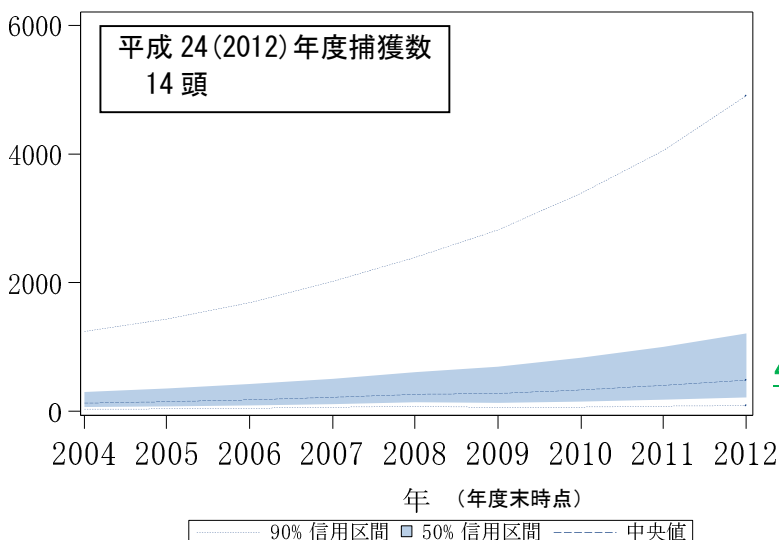
中央値 489 頭

[90%信用区間 95~4,904 頭]
[50%信用区間 220~1,212 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで石川県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 593 頭、90%信用区間 108~6,001 頭、50%信用区間 266~1,475 頭。

個体数（頭）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

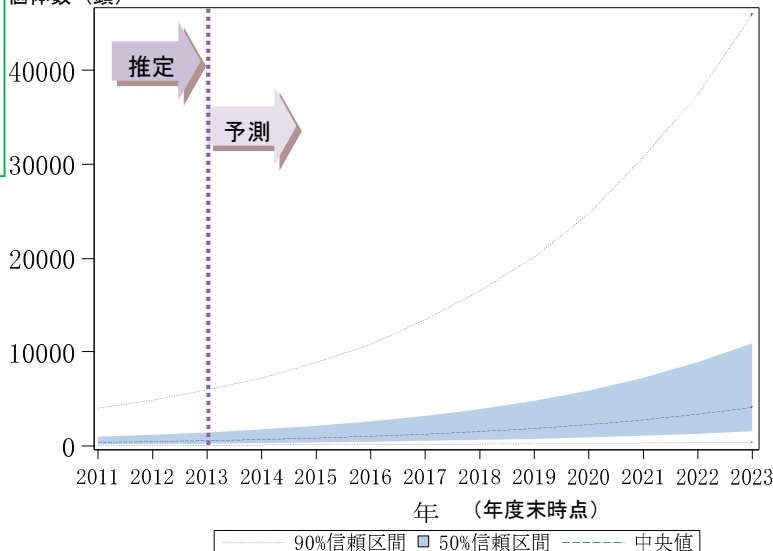
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 4,131 頭

[90%信頼区間 422~45,989 頭]
[50%信頼区間 1,597~10,984 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

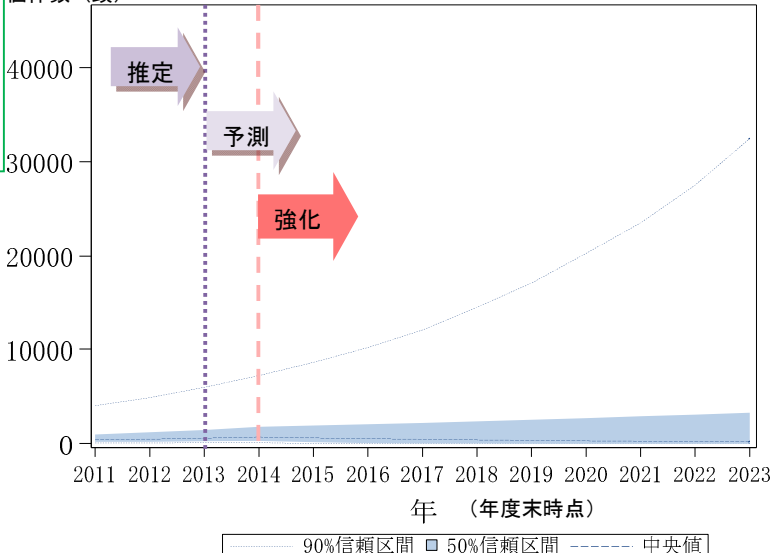
中央値 203 頭

[90%信頼区間 0~32,482 頭]
[50%信頼区間 0~3,299 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 23.7 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 34,864 頭

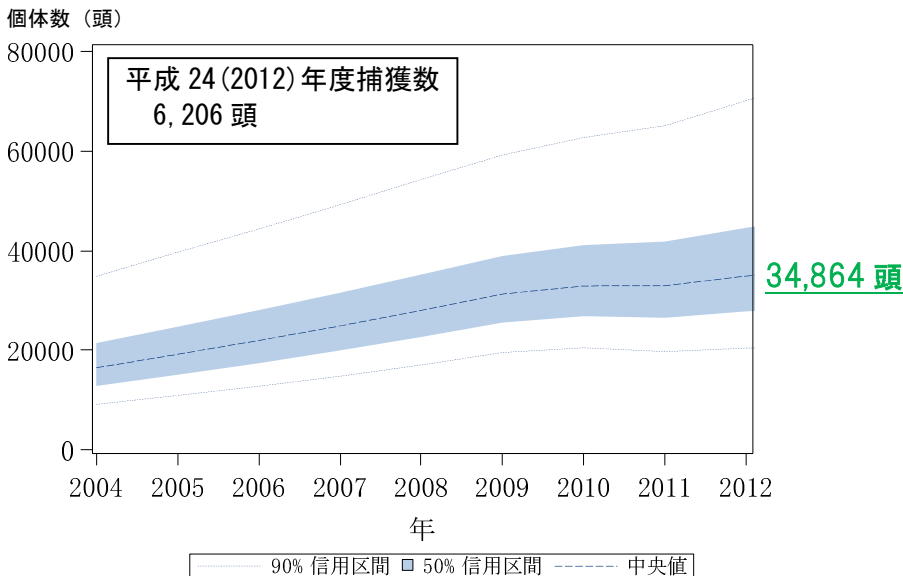
[90%信用区間 20,405~70,056 頭]

[50%信用区間 27,798~44,553 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで福井県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 36,514 頭、90%信用区間 20,489~75,140 頭、50%信用区間 28,626~47,059 頭。

※推定に使用したデータ：目撃効率、糞塊密度、捕獲数



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

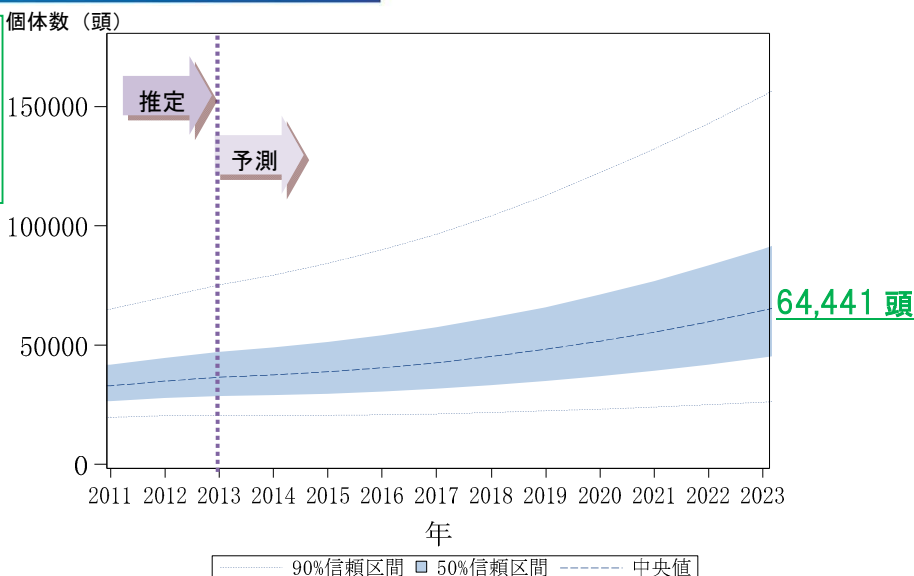
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 64,441 頭

[90%信頼区間 26,039~154,167 頭]

[50%信頼区間 44,765~90,149 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

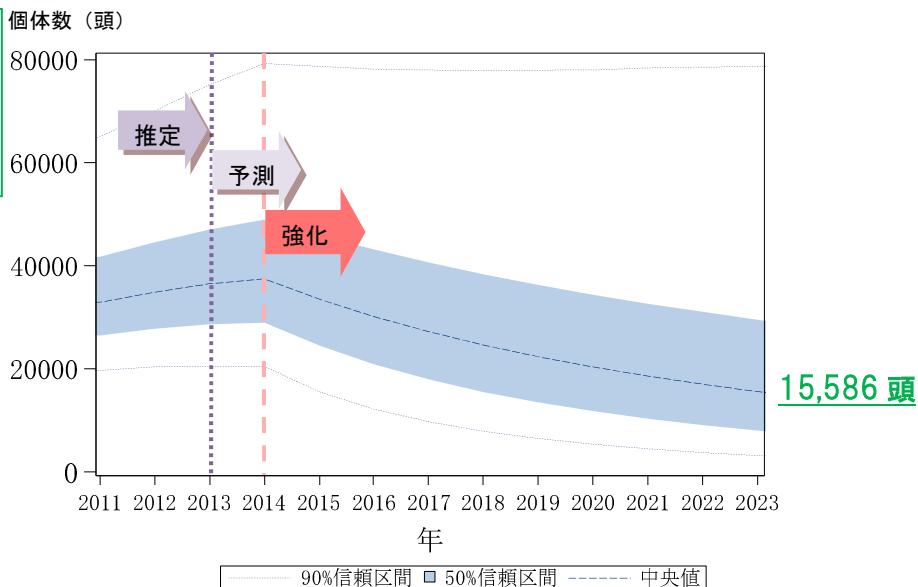
中央値 15,586 頭

[90%信頼区間 3,198~78,635 頭]

[50%信頼区間 8,062~29,519 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.4 倍を維持すると半減すると予測された。





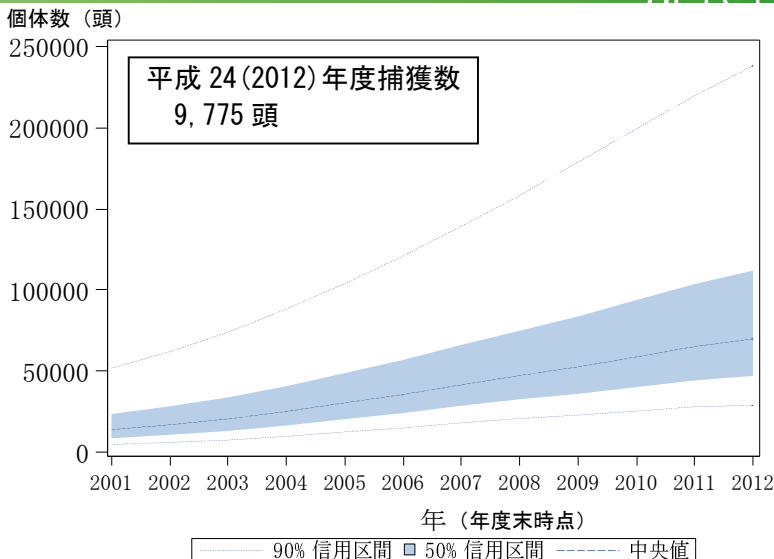
1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 69,917 頭

[90%信用区間 28,908~238,154 頭]
[50%信用区間 47,052~111,982 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで山梨県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。



69,917 頭

2. 将来予測の結果

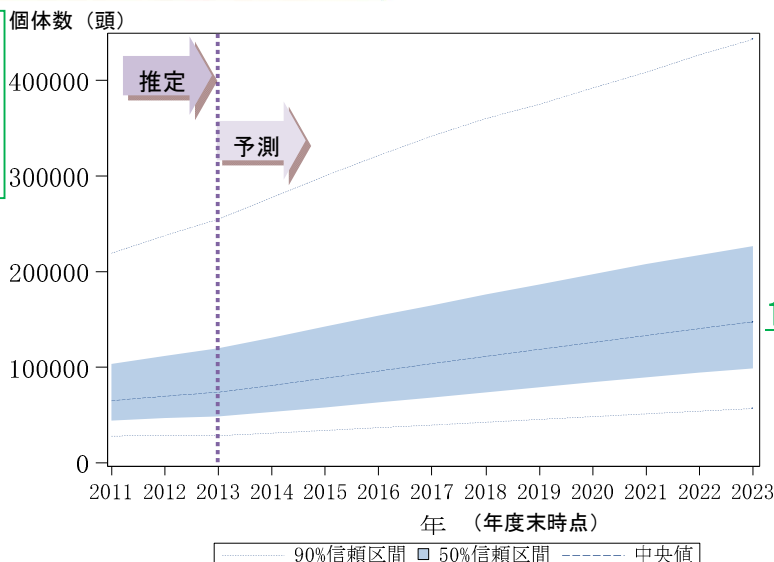
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 147,882 頭

[90%信頼区間 56,989~443,603 頭]
[50%信頼区間 99,209~227,010 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



147,882 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

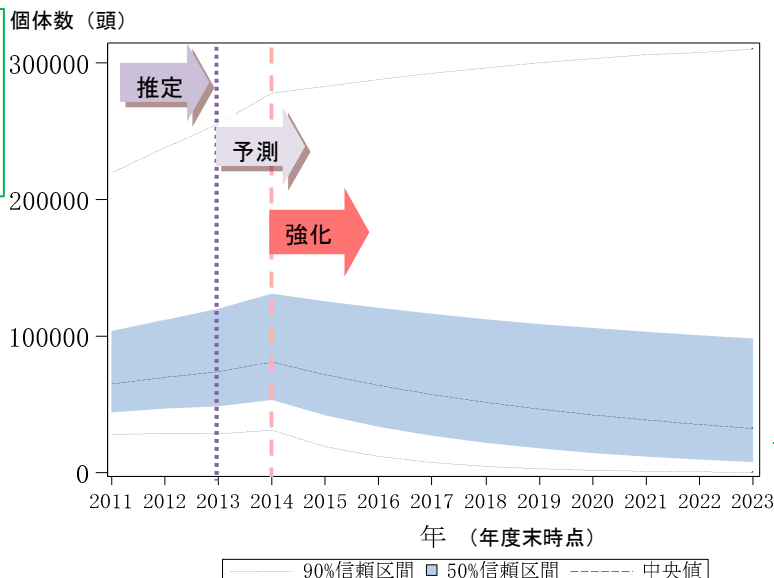
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 32,470 頭

[90%信頼区間 505~310,271 頭]
[50%信頼区間 8,098~98,343 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.7 倍を維持すると半減すると予測された。



32,470 頭



1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

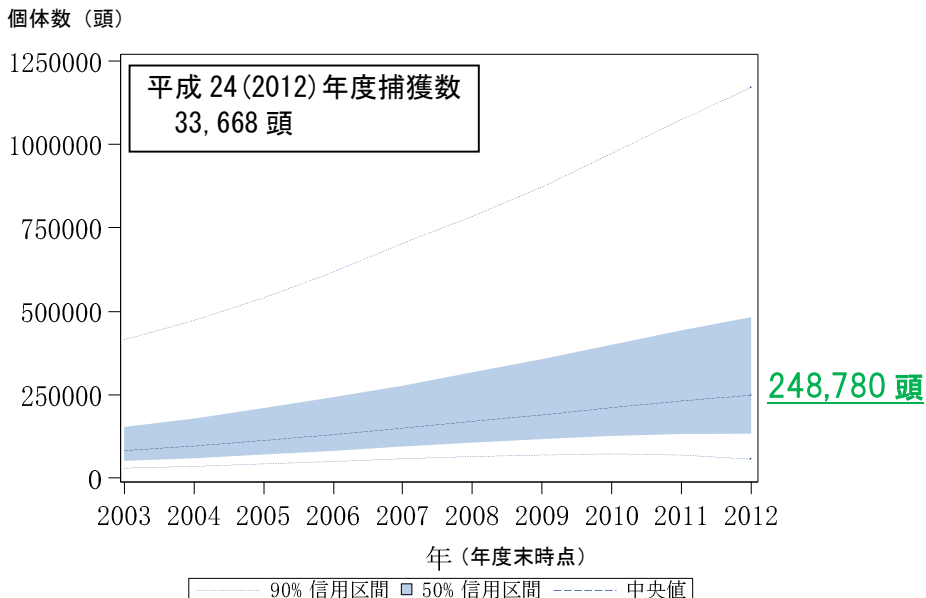
中央値 248,780 頭

90%信用区間 57,083~1,170,693 頭

50%信用区間 133,592~483,163 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで長野県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※推定に使用したデータ：区画法による生息密度（2006,2010）、捕獲数（毎年度）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

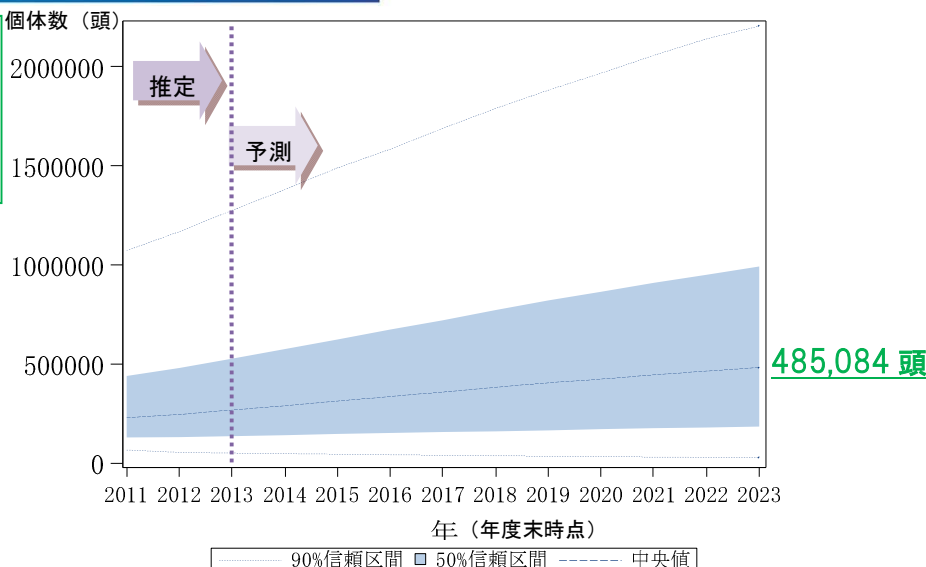
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 485,084 頭

90%信頼区間 30,356~2,207,306 頭

50%信頼区間 187,392~995,133 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

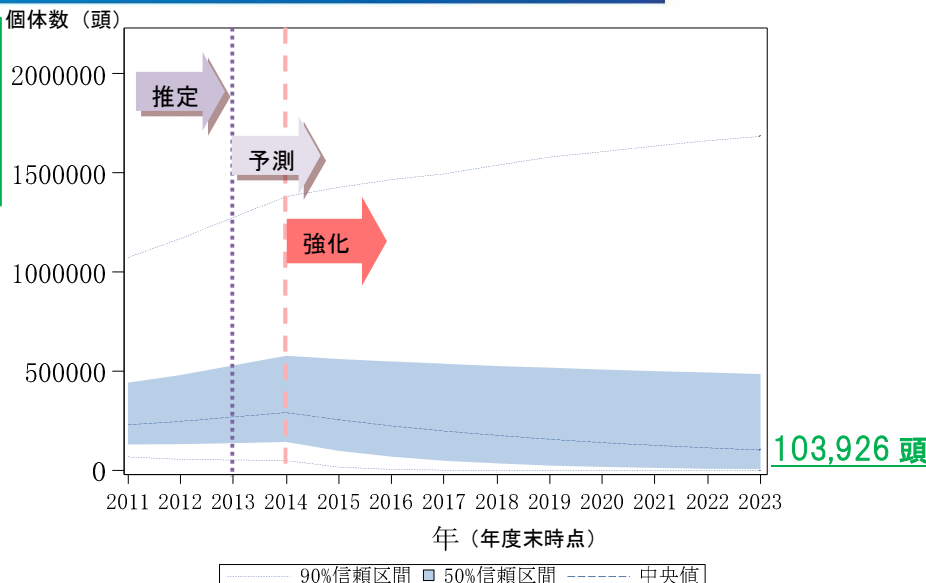
中央値 103,926 頭

90%信頼区間 5~1,686,219 頭

50%信頼区間 6,964~487,836 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.6 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 61,282 頭

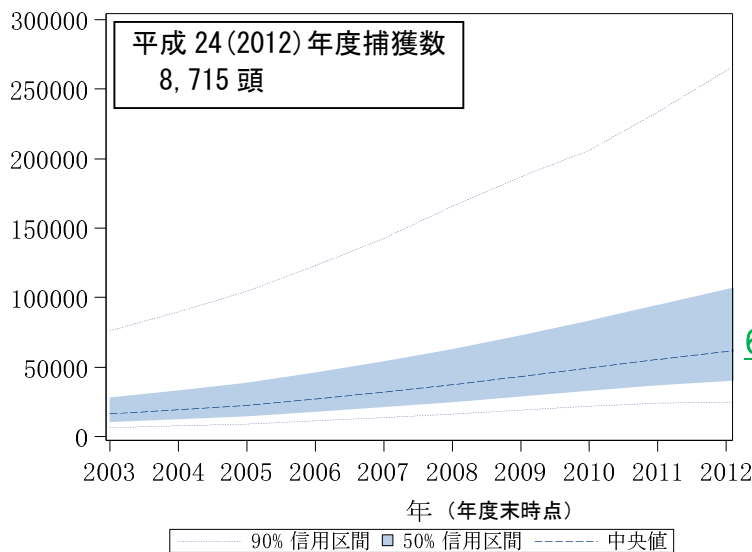
[90%信用区間 24,960~263,352 頭]

[50%信用区間 39,972~106,068 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで岐阜県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 67,323 頭、90%信用区間 25,175~297,316 頭、50%信用区間 42,826~117,689 頭。

個体数（頭）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

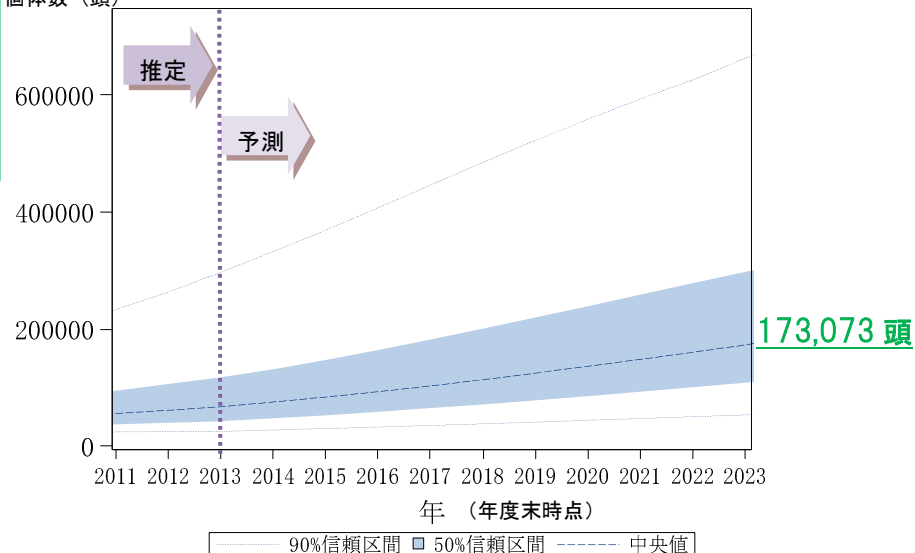
中央値 173,073 頭

[90%信頼区間 53,275~662,770 頭]

[50%信頼区間 108,562~297,747 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 25,788 頭

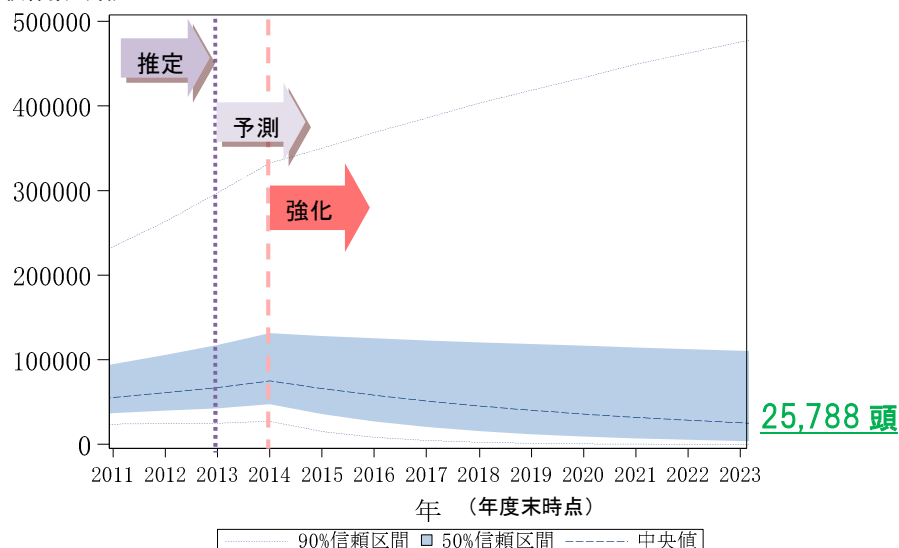
[90%信頼区間 163~475,381 頭]

[50%信頼区間 4,315~110,953 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.8 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）





1. 個体数推定の結果

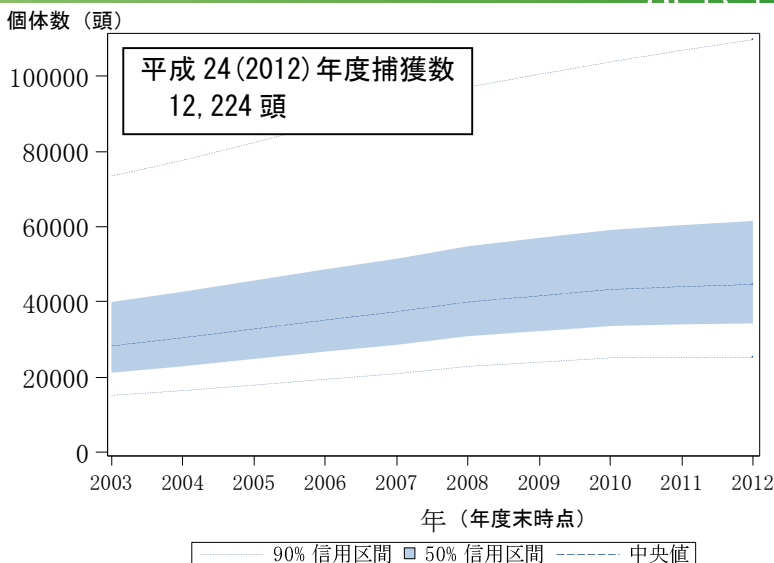
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 44,646 頭

90%信用区間 25,278~109,691 頭
50%信用区間 34,274~61,488 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで静岡県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 42,661 頭、90%信用区間 22,538~110,071 頭、50%信用区間 31,944~60,361 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

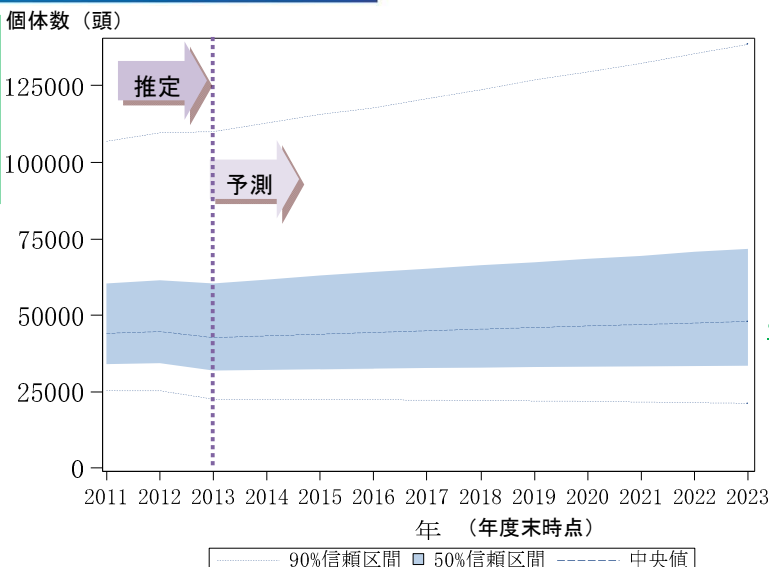
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 47,965 頭

90%信頼区間 21,165~138,632 頭
50%信頼区間 33,482~71,757 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

平成 23(2011)年度捕獲率は、中央値 0.18、90%信用区間 0.08~0.27



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

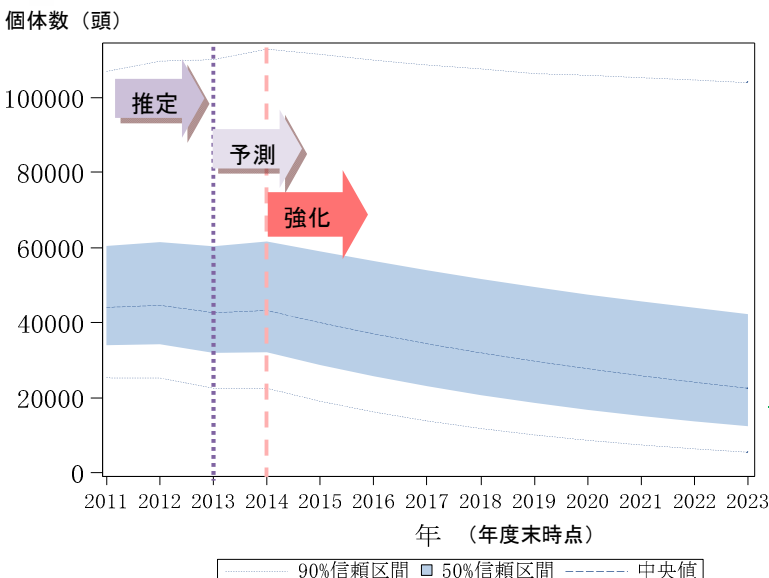
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 22,531 頭

90%信頼区間 5,484~103,935 頭
50%信頼区間 12,385~42,286 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.4 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

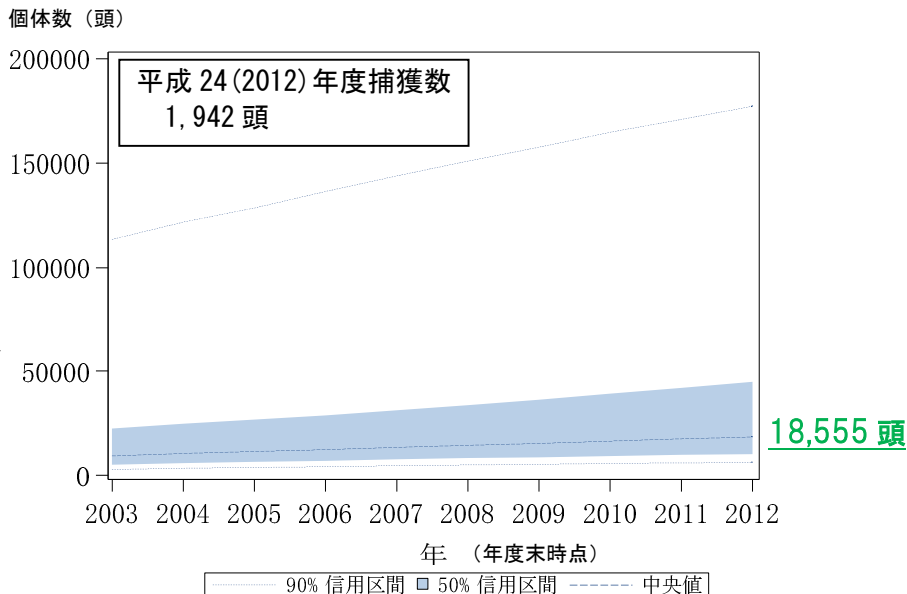
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 18,555 頭

90%信用区間 6,243~177,081 頭
50%信用区間 10,303~45,023 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで愛知県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 18,725 頭、90%信用区間 5,314~183,081 頭、50%信用区間 9,815~46,774 頭。



2. 将来予測の結果

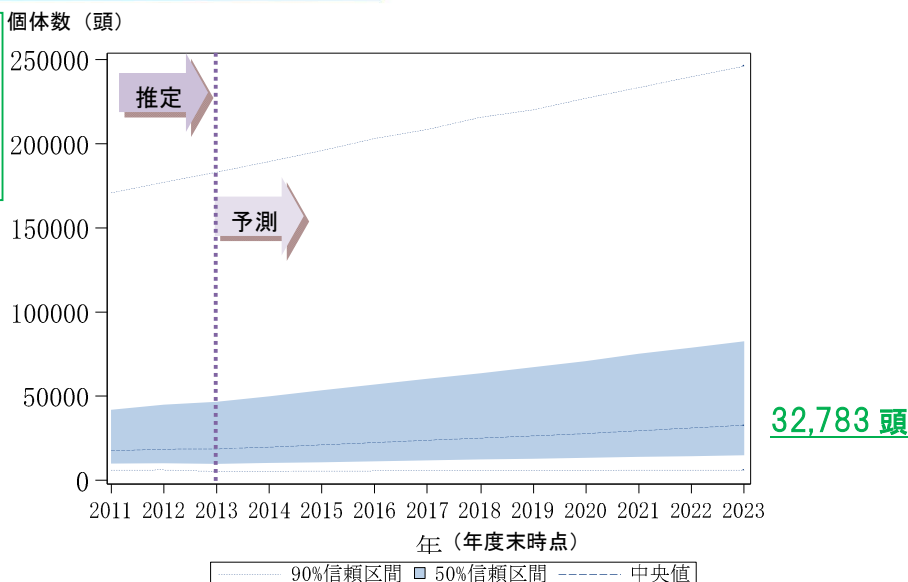
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 32,783 頭

90%信頼区間 6,135~246,057 頭
50%信頼区間 14,956~82,699 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

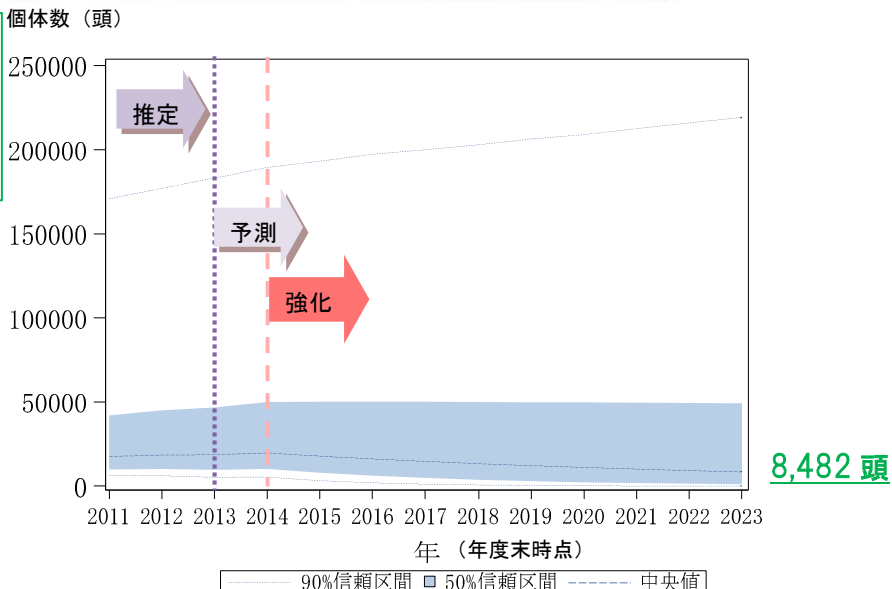
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 8,482 頭

90%信頼区間 67~219,163 頭
50%信頼区間 1,157~49,335 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.5 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

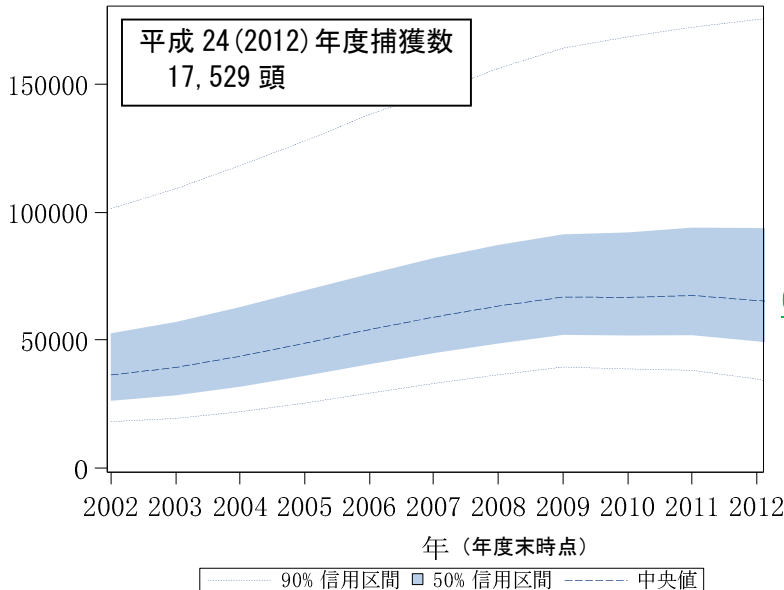
中央値 65,590 頭

90%信用区間 34,930~175,315 頭
50%信用区間 49,632~93,927 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで三重県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 63,766 頭、90%信用区間 30,125~178,041 頭、50%信用区間 46,609~93,250 頭。

個体数（頭）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

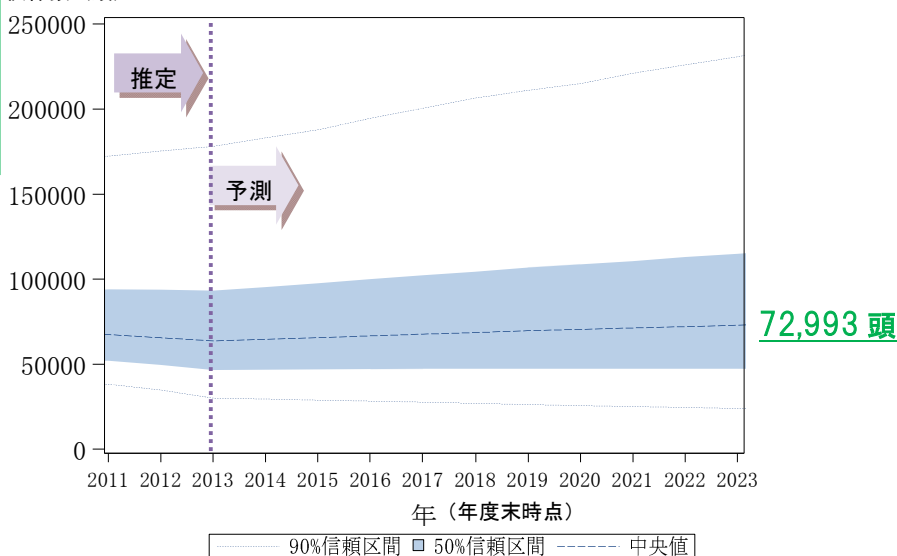
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 72,993 頭

90%信頼区間 24,076~230,704 頭
50%信頼区間 47,473~114,892 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

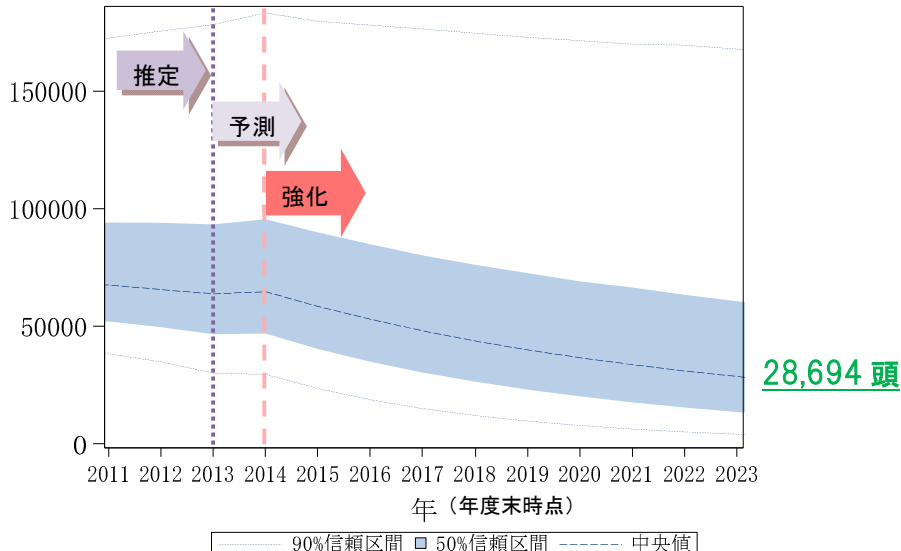
中央値 28,694 頭

90%信頼区間 4,190~167,671 頭
50%信頼区間 13,665~60,663 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.5 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）





1. 個体数推定の結果

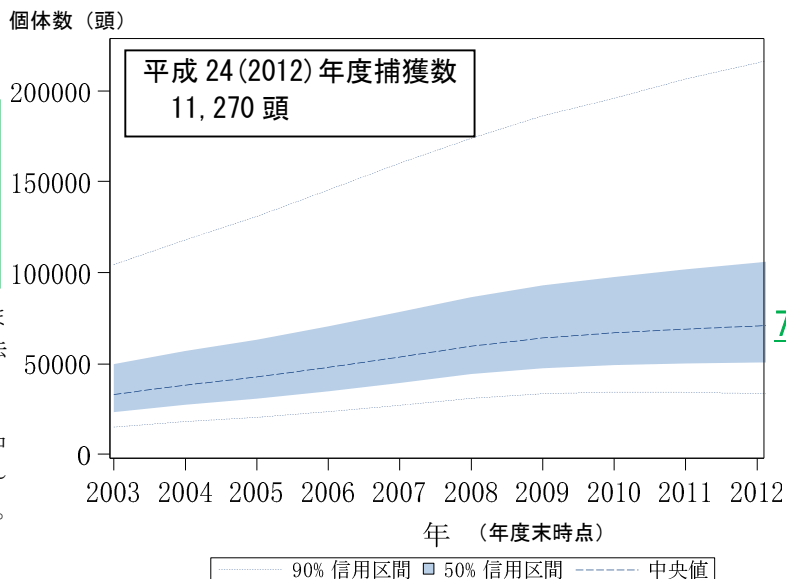
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 70,661 頭

[90%信用区間 33,499~215,366 頭]
[50%信用区間 50,523~105,535 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで滋賀県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 72,150 頭、90%信用区間 32,079~225,146 頭、50%信用区間 50,818~109,612 頭。



70,661 頭

2. 将来予測の結果

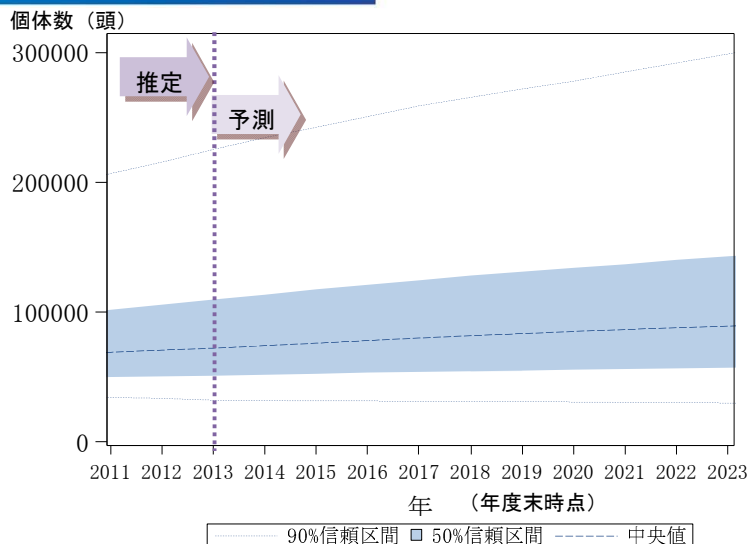
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 89,175 頭

[90%信頼区間 29,923~298,612 頭]
[50%信頼区間 57,125~142,749 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



89,175 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

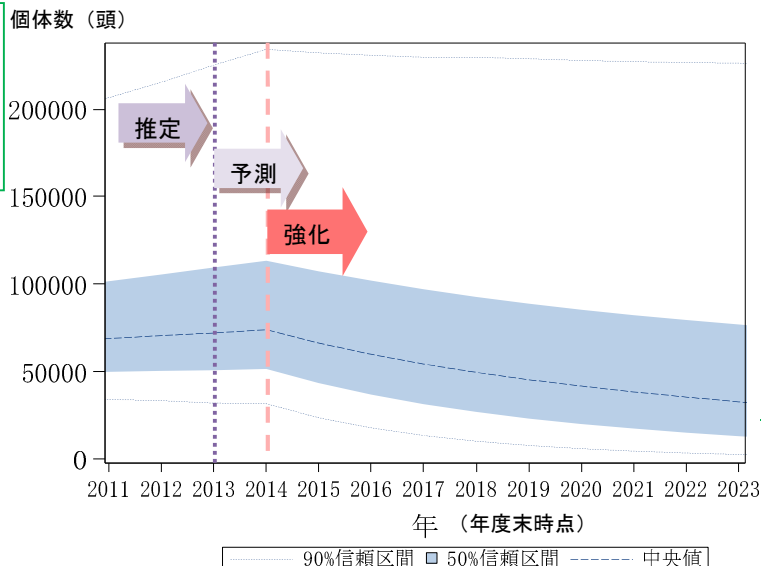
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 32,827 頭

[90%信頼区間 2,755~226,268 頭]
[50%信頼区間 13,250~77,011 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.8 倍を維持すると半減すると予測された。



32,827 頭



1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

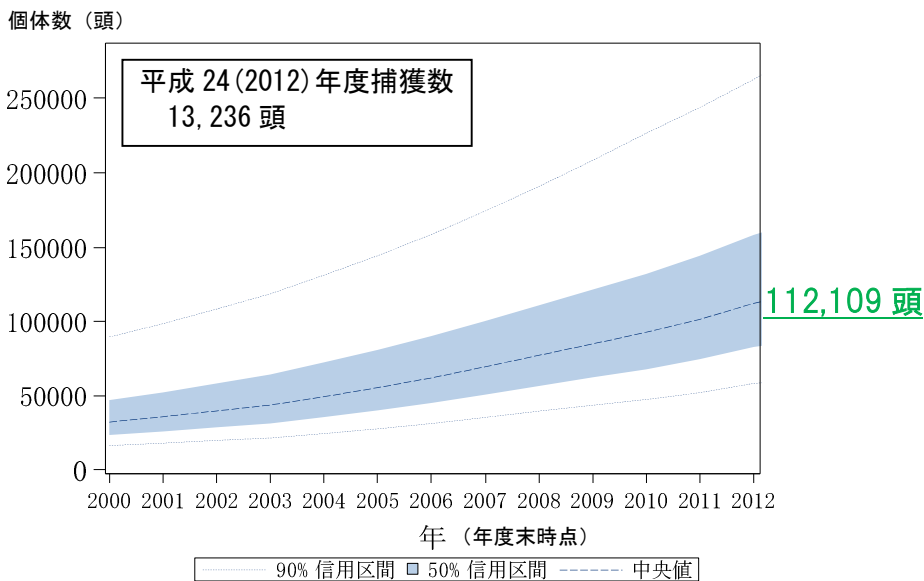
中央値 112,109 頭

[90%信用区間 58,172~262,841 頭]

[50%信用区間 82,839~158,223 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで京都府で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 119,981 頭、90%信用区間 60,755~282,872 頭、50%信用区間 87,775~169,047 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

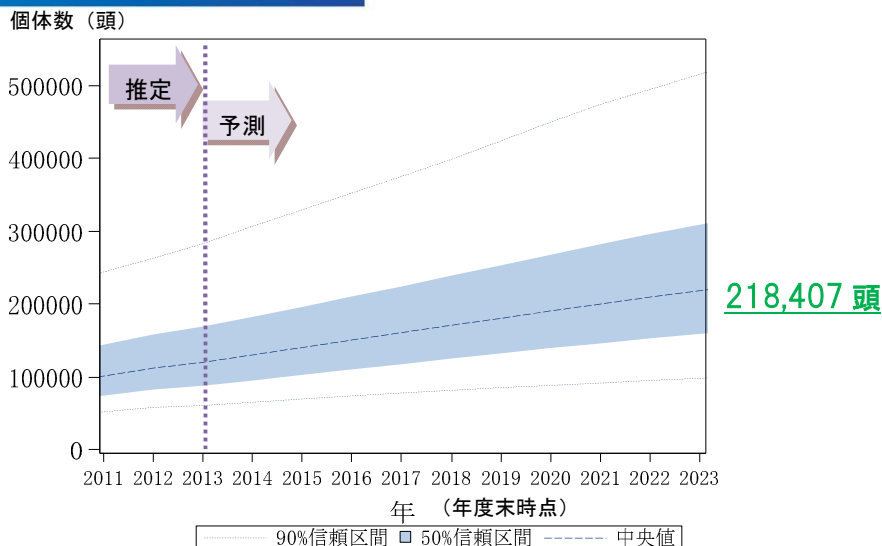
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 218,407 頭

[90%信頼区間 98,067~515,429 頭]

[50%信頼区間 159,139~308,931 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

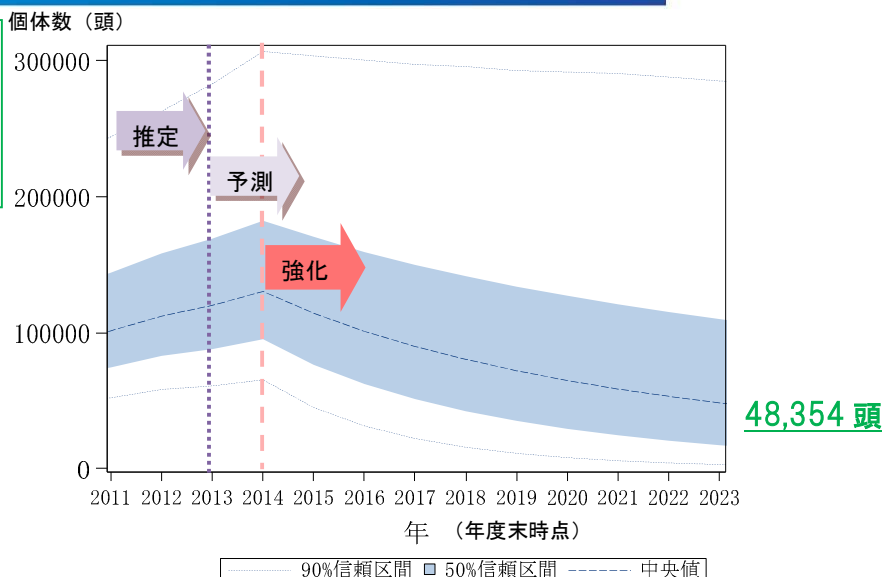
中央値 48,354 頭

[90%信頼区間 2,951~285,076 頭]

[50%信頼区間 17,212~109,987 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、府で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.4 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

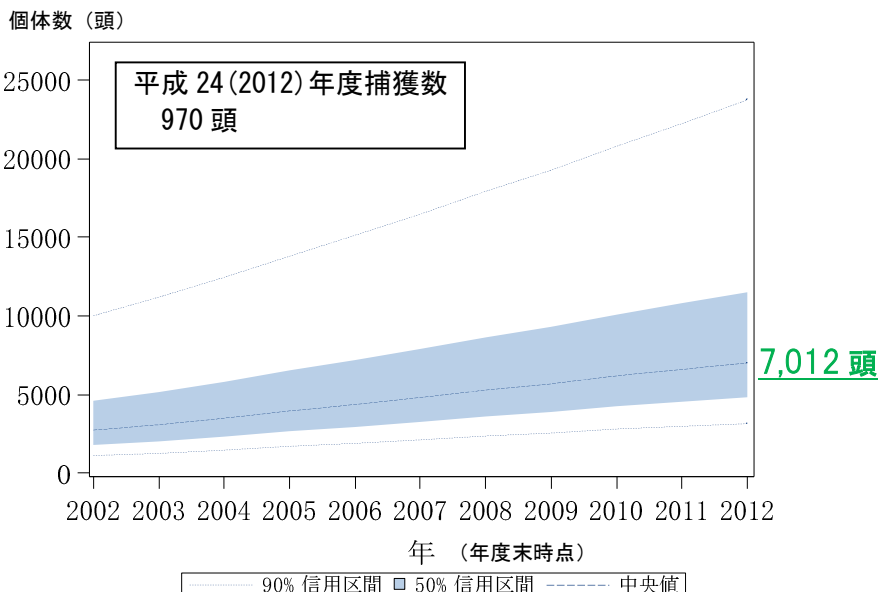
中央値 7,012 頭

[90%信用区間 3,144~23,753 頭]

[50%信用区間 4,826~11,509 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで大阪府で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 7,133 頭、90%信用区間 2,969~25,031 頭、50%信用区間 4,792~11,886 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

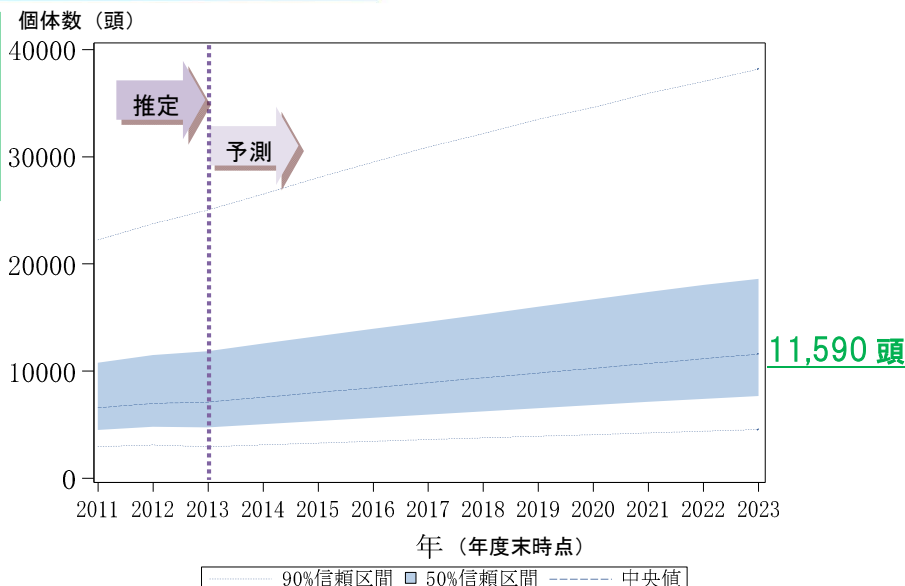
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 11,590 頭

[90%信頼区間 4,566~38,045 頭]

[50%信頼区間 7,676~18,573 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

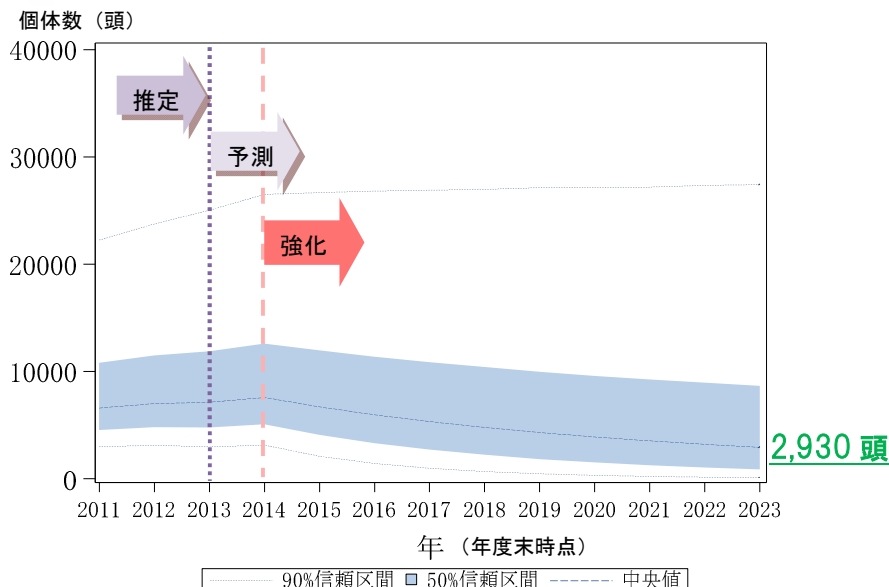
中央値 2,930 頭

[90%信頼区間 110~27,346 頭]

[50%信頼区間 886~8,646 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、府で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.2 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

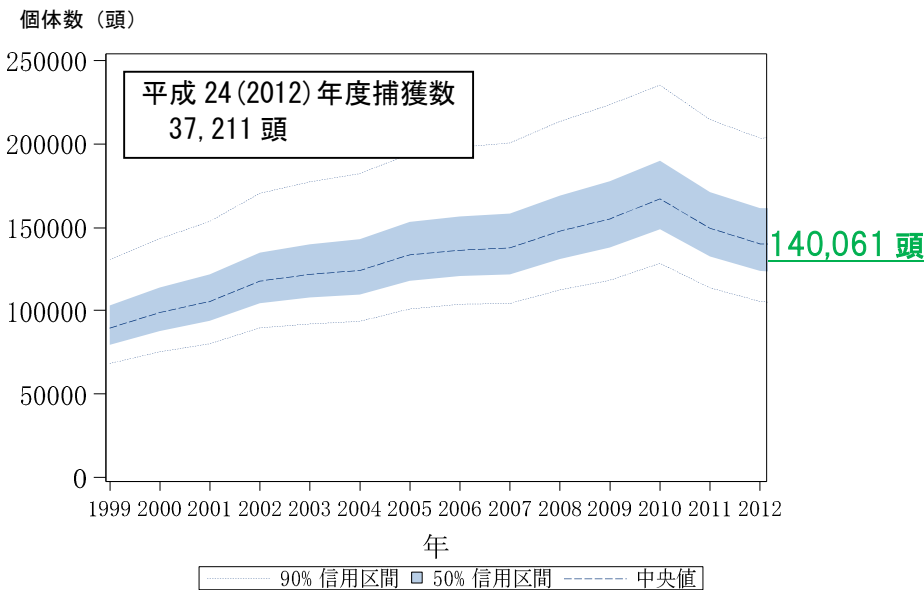
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 140,061 頭

90%信用区間 105,594~203,433 頭
50%信用区間 123,976~161,415 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 139,250 頭、90%信用区間 102,675~203,670 頭、50%信用区間 121,898~161,343 頭。



2. 将来予測の結果

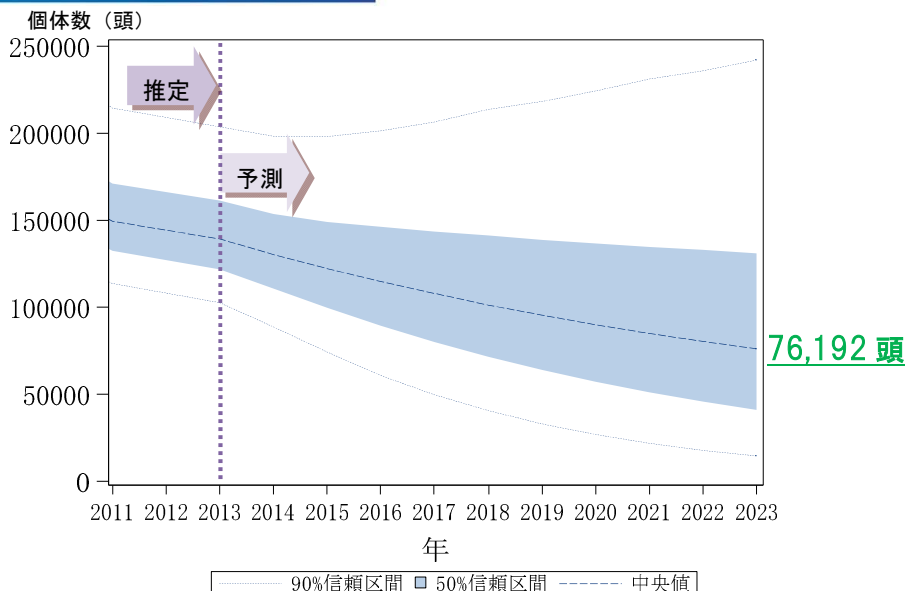
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 76,192 頭

90%信頼区間 14,642~242,059 頭
50%信頼区間 41,069~131,094 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

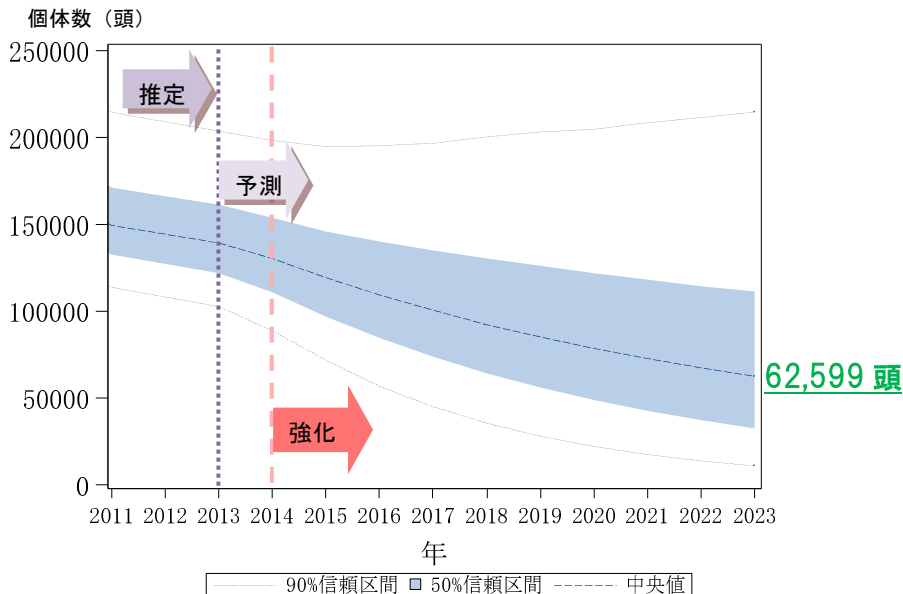
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 62,599 頭

90%信頼区間 10,972~214,657 頭
50%信頼区間 32,521~111,495 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.1 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

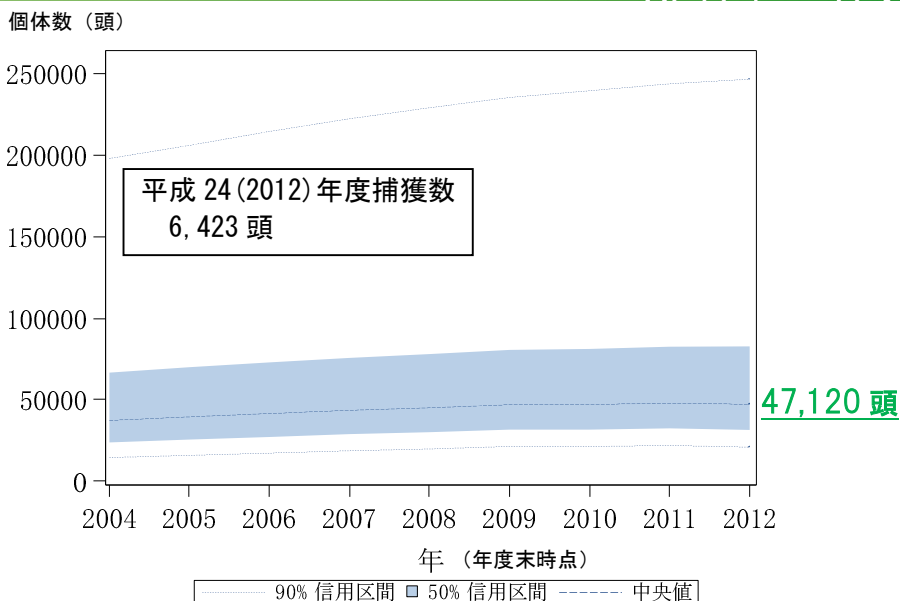
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 47,120 頭

[90%信用区間 20,854~246,568 頭]
[50%信用区間 31,427~82,712 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで奈良県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 45,806 頭、90%信用区間 19,215~248,343 頭、50%信用区間 29,963~81,967 頭。



2. 将来予測の結果

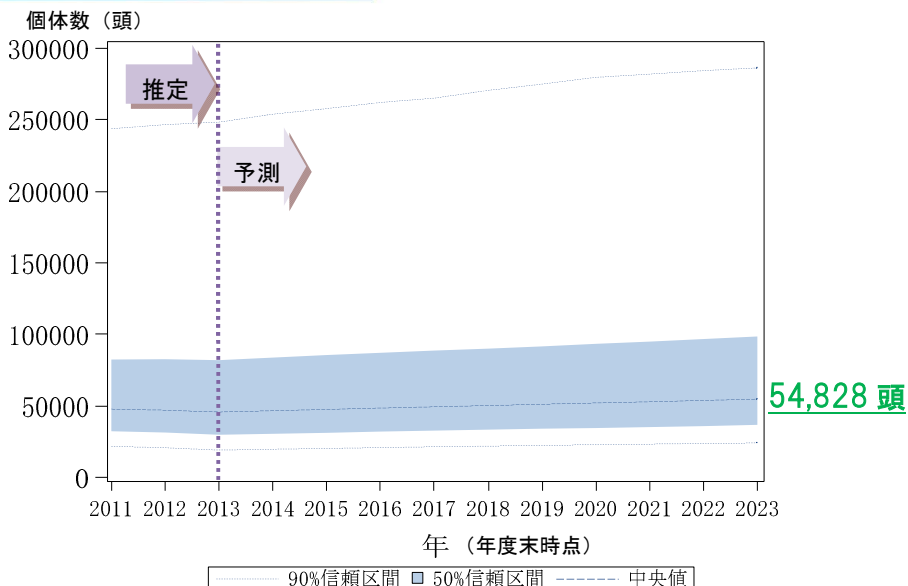
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 54,828 頭

[90%信頼区間 24,204~286,216 頭]
[50%信頼区間 36,784~98,491 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

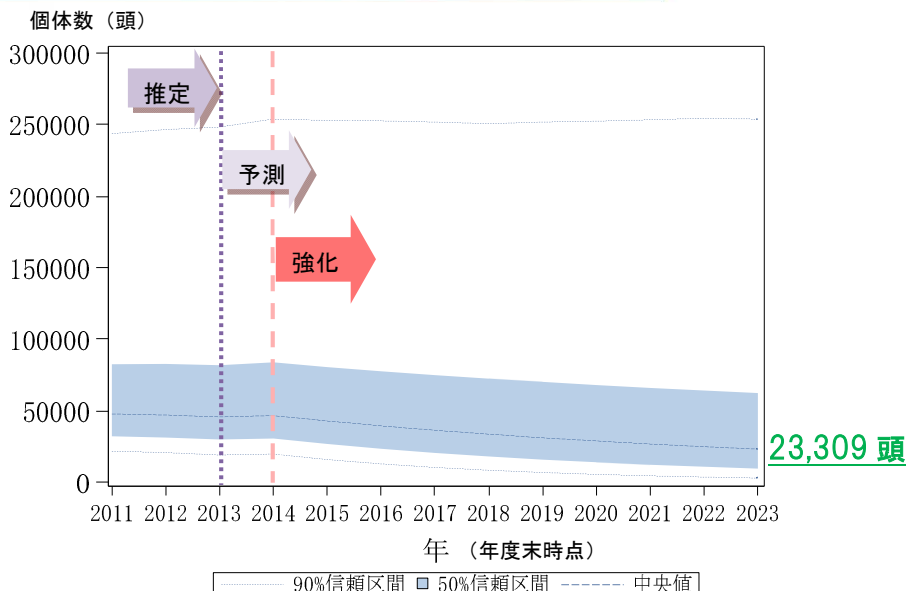
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 23,309 頭

[90%信頼区間 3,095~253,836 頭]
[50%信頼区間 9,765~62,446 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.0 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

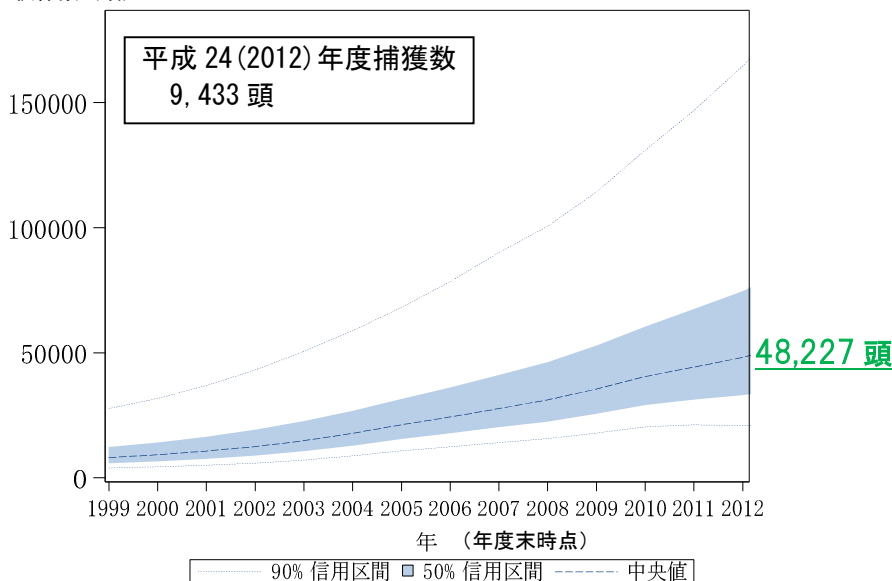
中央値 48,227 頭

90%信用区間 20,946~164,717 頭
50%信用区間 33,108~74,763 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで和歌山県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 53,442 頭、90%信用区間 20,741~184,333 頭、50%信用区間 35,736~84,167 頭。

個体数（頭）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

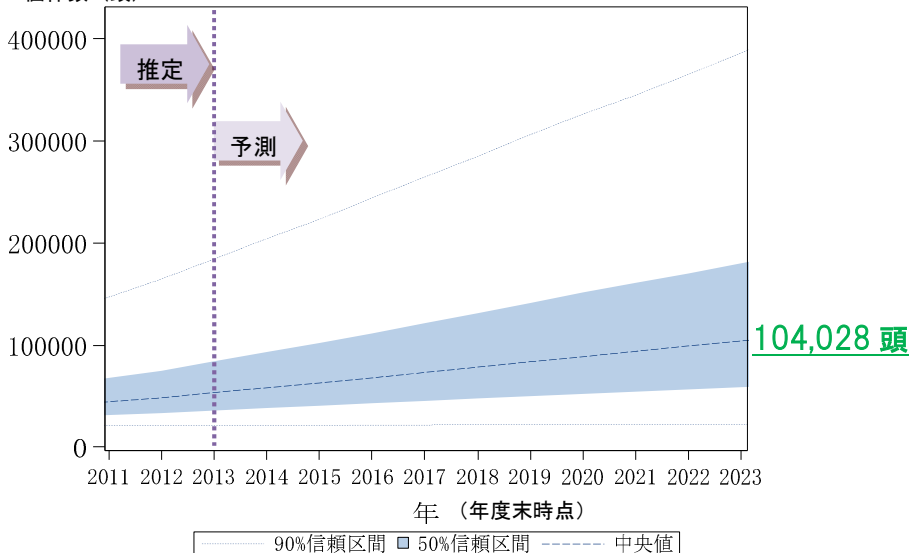
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 104,028 頭

90%信頼区間 22,341~386,294 頭
50%信頼区間 58,539~180,125 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

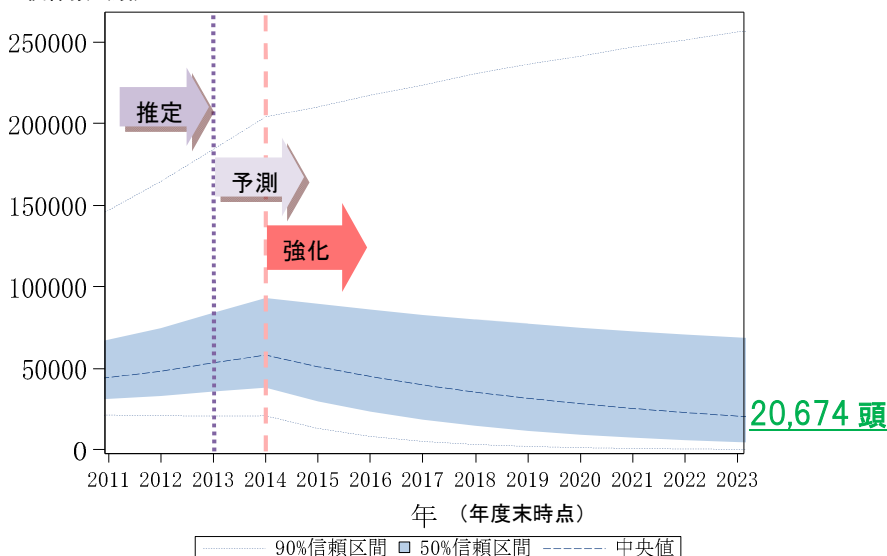
中央値 20,674 頭

90%信頼区間 350~256,356 頭
50%信頼区間 4,803~68,950 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.0 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）





1. 個体数推定の結果

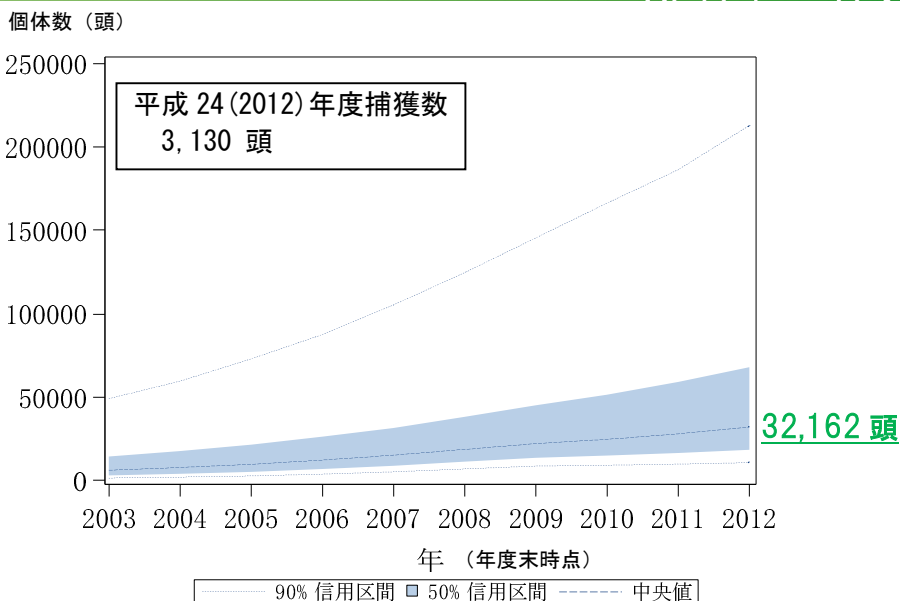
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 32,162 頭

[90%信用区間 10,797~212,913 頭]
[50%信用区間 18,523~68,019 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで鳥取県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 35,298 頭、90%信用区間 9,933~239,458 頭、50%信用区間 19,427~76,744 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

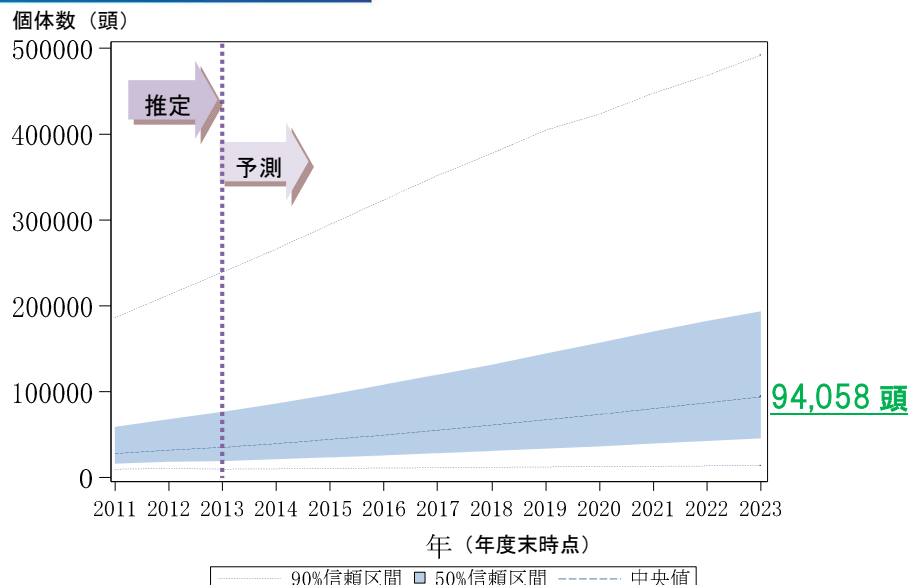
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 94,058 頭

[90%信頼区間 14,315~491,973 頭]
[50%信頼区間 45,611~193,664 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

平成 23(2011)年度捕獲率は、中央値 0.10、90%信用区間 0.02~0.24



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

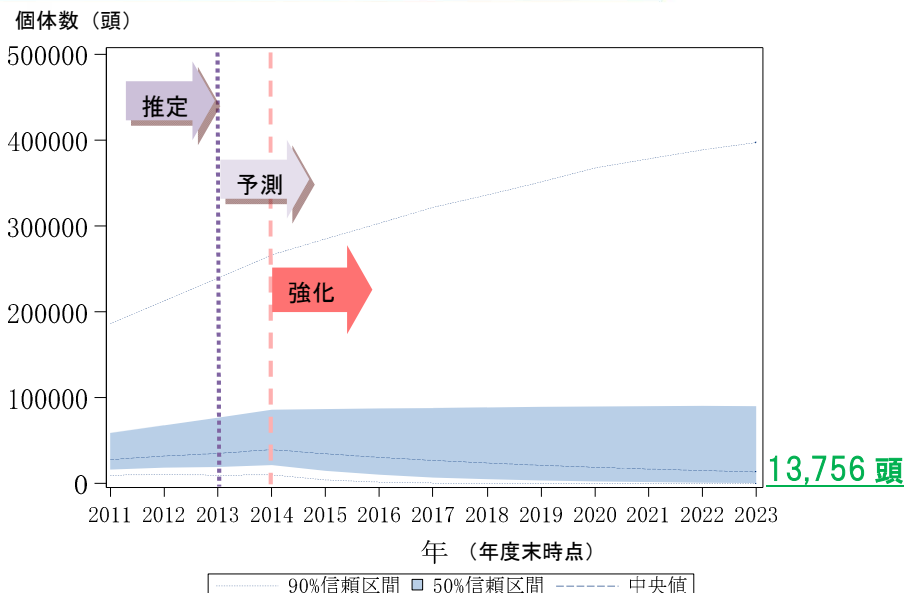
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 13,756 頭

[90%信頼区間 5~397,309 頭]
[50%信頼区間 941~90,330 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.9 倍を維持すると半減すると予測された。





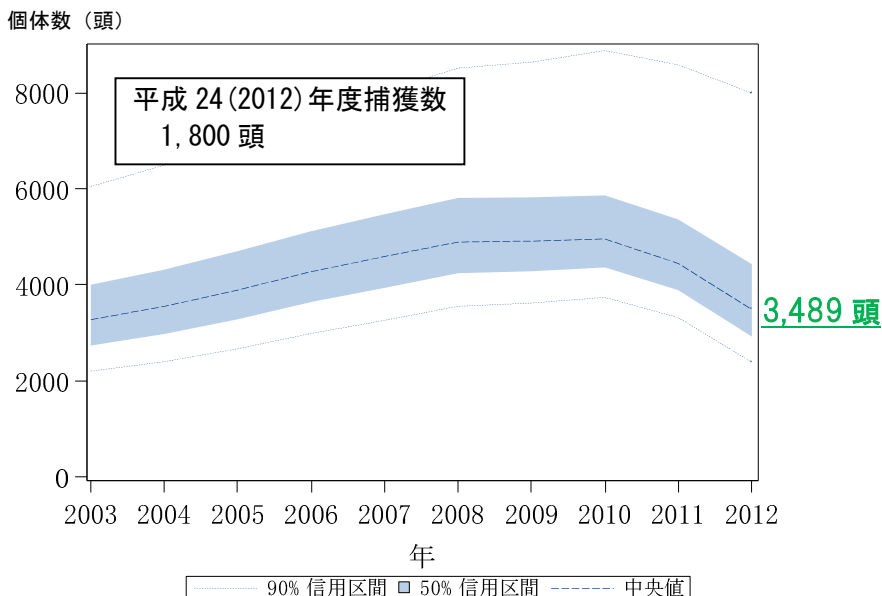
1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 3,489 頭

[90%信用区間 2,389~7,994 頭]
[50%信用区間 2,924~4,430 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果。



2. 将来予測の結果

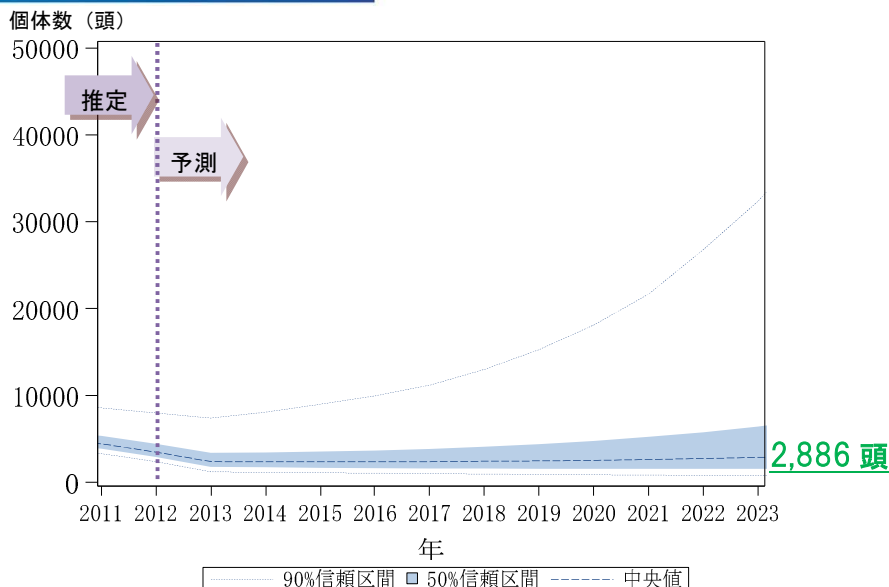
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 2,886 頭

[90%信頼区間 778~32,383 頭]
[50%信頼区間 1,563~6,435 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

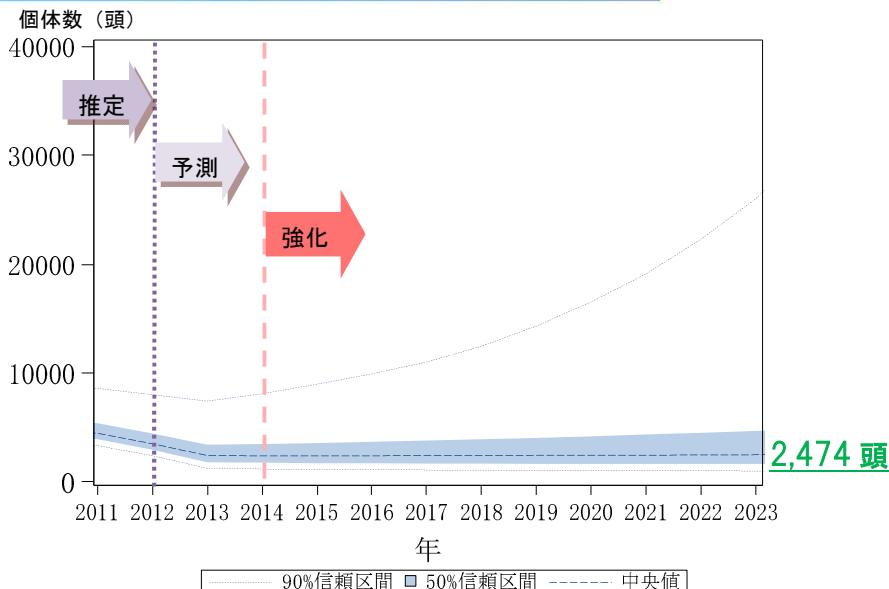
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 2,474 頭

[90%信頼区間 983~26,025 頭]
[50%信頼区間 1,623~4,666 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 0.7 倍（出雲北山山地）、0.9 倍（湖北山地）、2.6 倍（中国山地）を維持すると半減すると予測された。





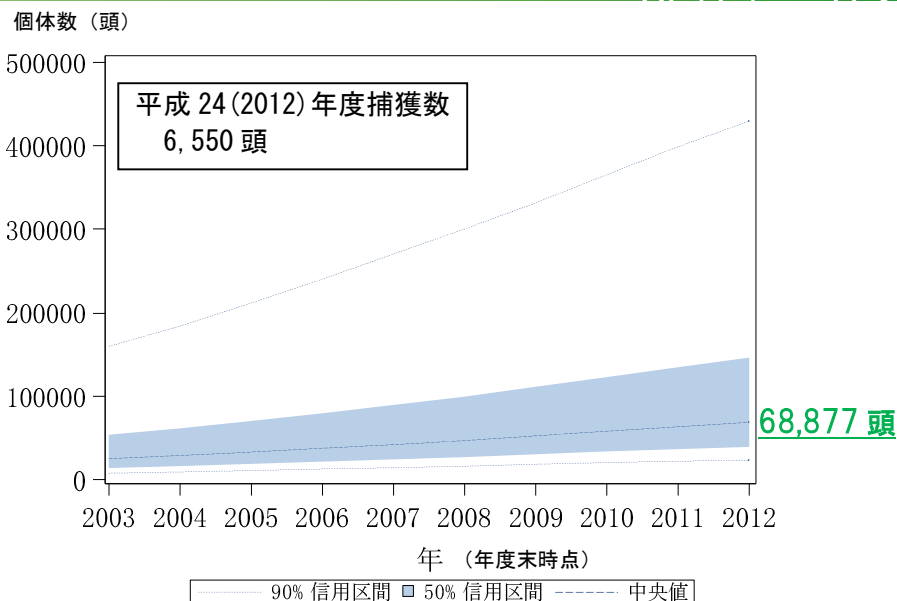
1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数
中央値 68,877 頭

90%信用区間 23,284~429,765 頭
50%信用区間 39,356~146,591 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで岡山県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 71,286 頭、90%信用区間 20,941~459,541 頭、50%信用区間 38,968~155,822 頭。



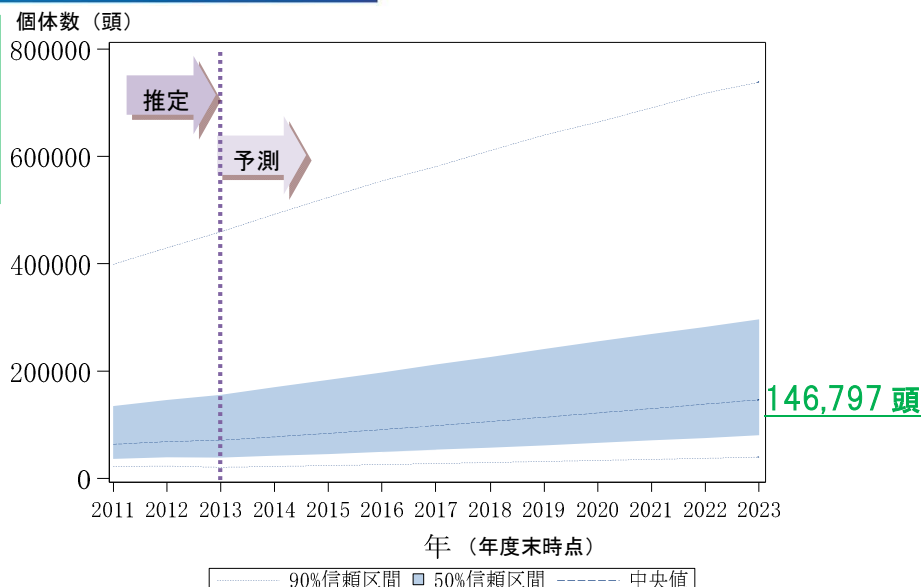
2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数
中央値 146,797 頭

90%信頼区間 39,887~738,101 頭
50%信頼区間 80,571~296,833 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



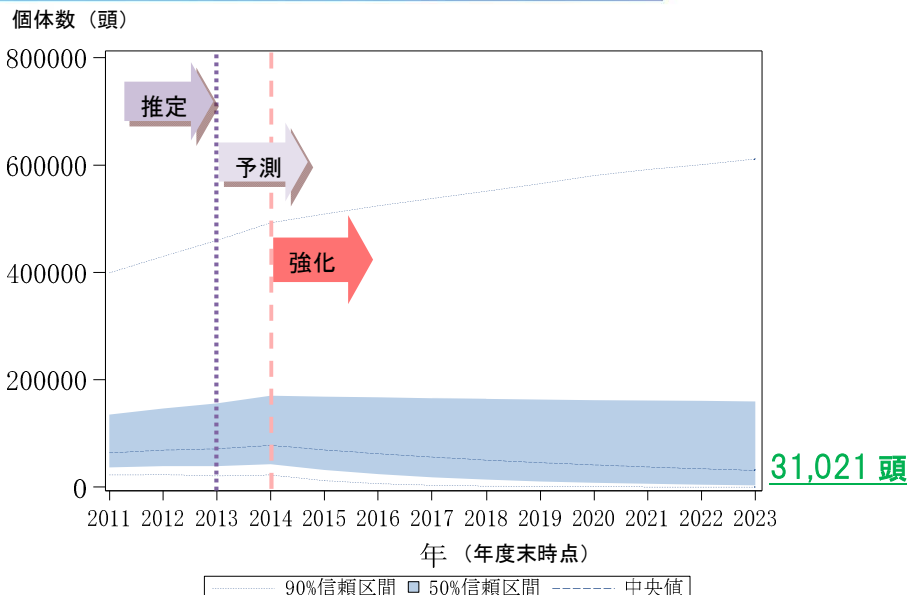
(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数
中央値 31,021 頭

90%信頼区間 84~611,162 頭
50%信頼区間 3,572~159,392 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 3.1 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 52,186 頭

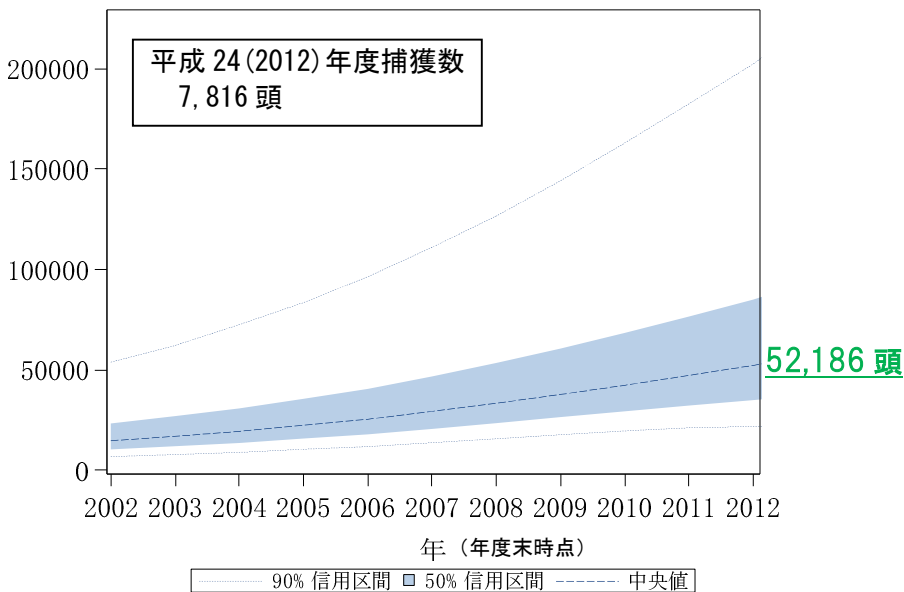
[90%信用区間 21,788~202,273 頭]

[50%信用区間 34,874~85,019 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで広島県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 57,754 頭、90%信用区間 21,848~225,957 頭、50%信用区間 37,841~95,169 頭。

個体数（頭）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

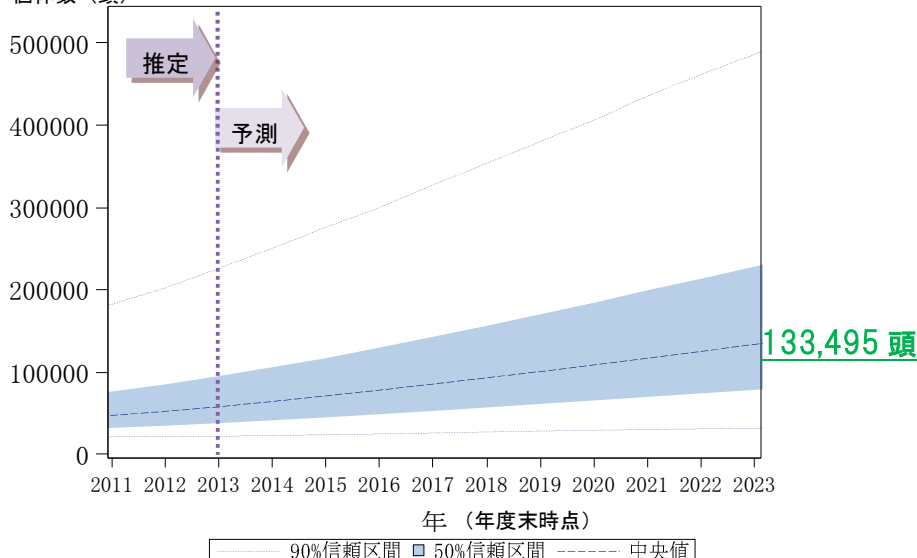
中央値 133,495 頭

[90%信頼区間 31,704~486,229 頭]

[50%信頼区間 78,394~228,180 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 20,295 頭

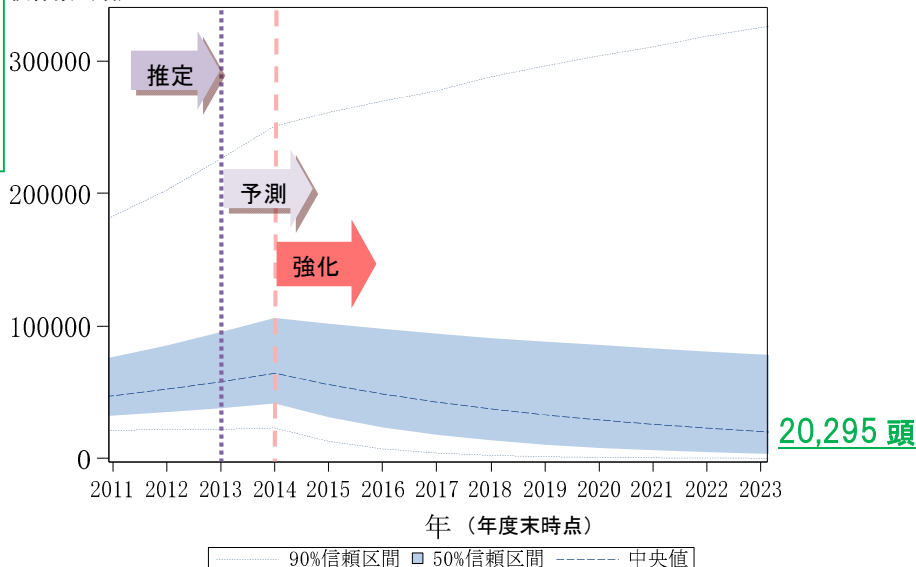
[90%信頼区間 135~324,864 頭]

[50%信頼区間 3,629~78,351 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.5 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

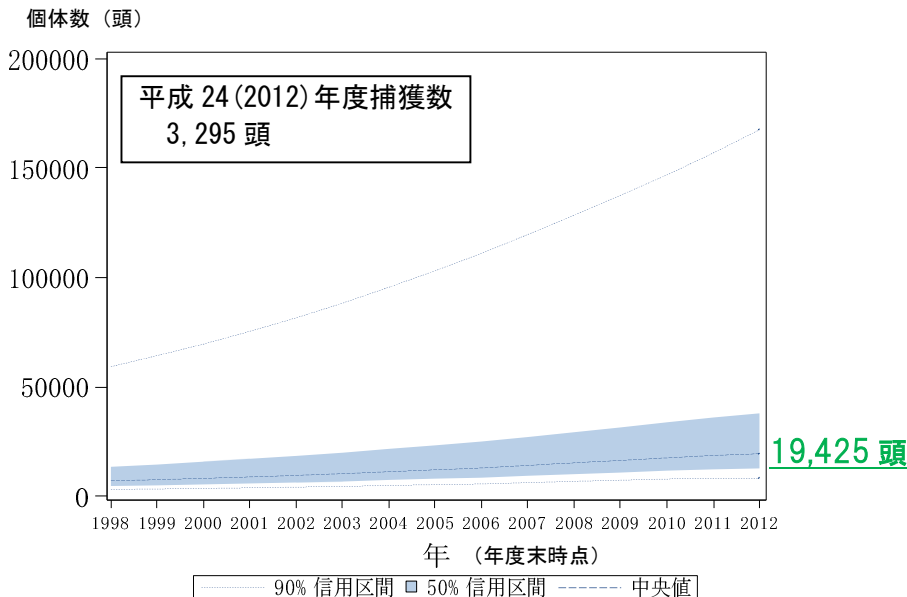
中央値 19,425 頭

[90%信用区間 8,244~167,589 頭]

[50%信用区間 12,647~37,919 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで山口県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 20,066 頭、90%信用区間 7,959~177,689 頭、50%信用区間 12,740~39,852 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

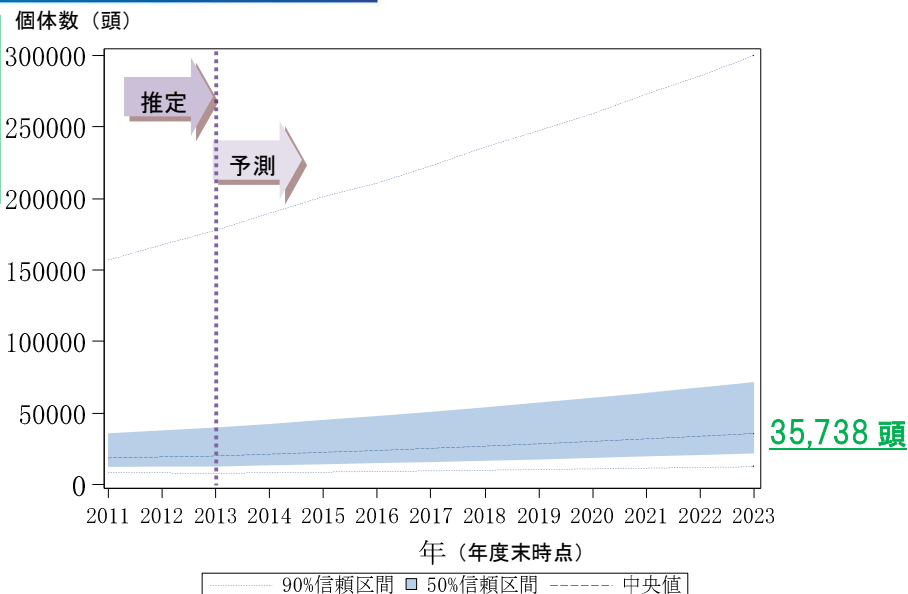
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 35,738 頭

[90%信頼区間 12,576~299,816 頭]

[50%信頼区間 21,889~71,686 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

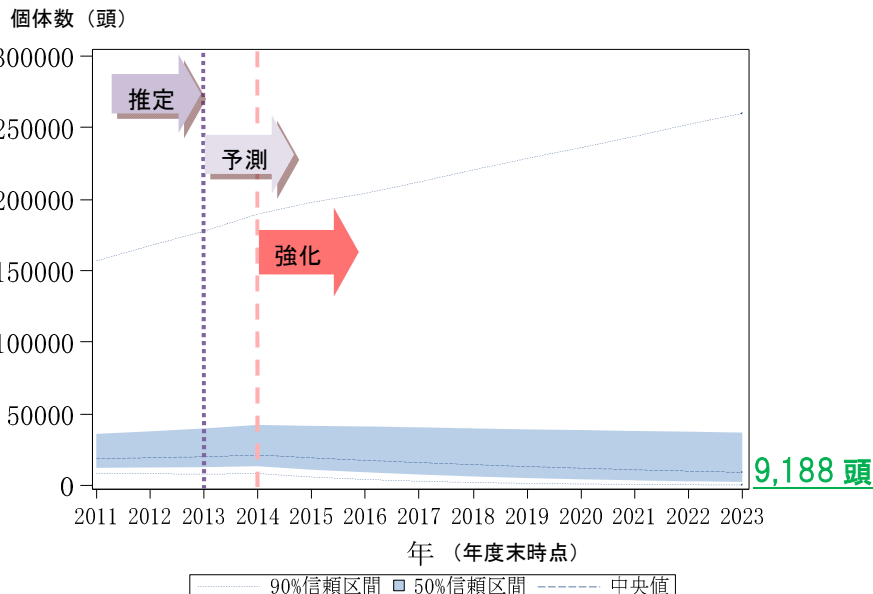
中央値 9,188 頭

[90%信頼区間 393~259,996 頭]

[50%信頼区間 2,516~37,074 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.0 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

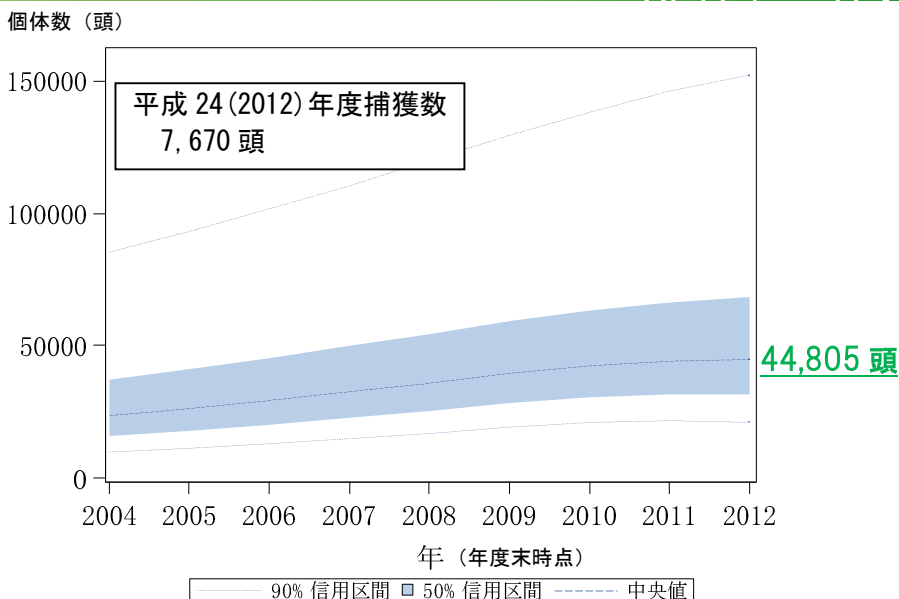
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 44,805 頭

90%信用区間 21,096~152,185 頭
50%信用区間 31,686~68,336 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで徳島県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 43,299 頭、90%信用区間 17,956~157,398 頭、50%信用区間 29,439~68,469 頭。



2. 将来予測の結果

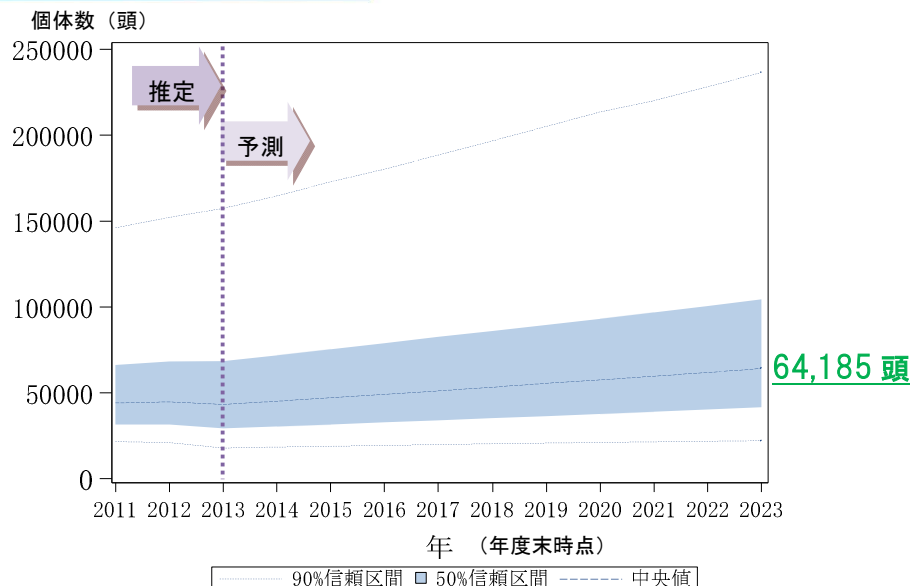
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 64,185 頭

90%信頼区間 22,220~236,473 頭
50%信頼区間 41,627~104,436 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

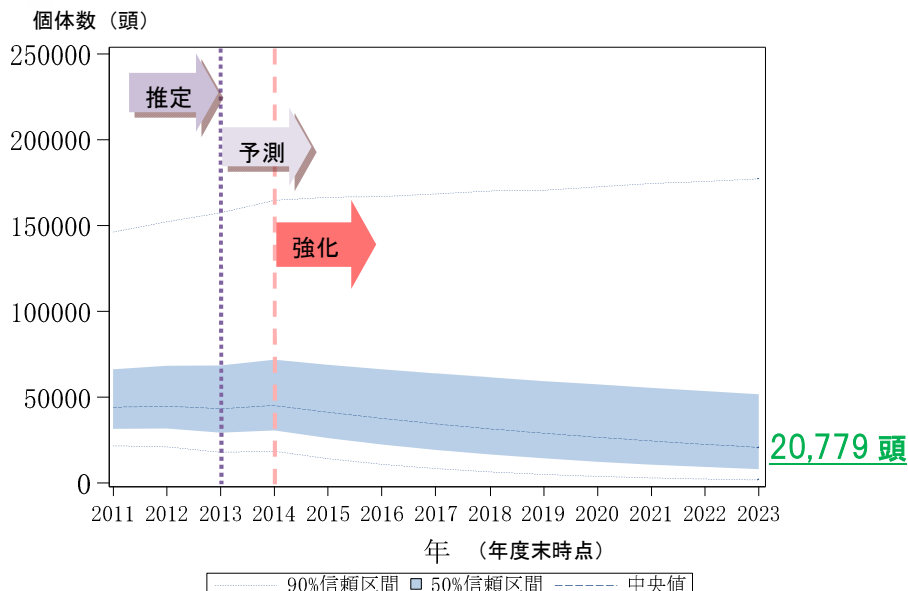
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 20,779 頭

90%信頼区間 1,820~177,168 頭
50%信頼区間 8,089~51,810 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.9 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

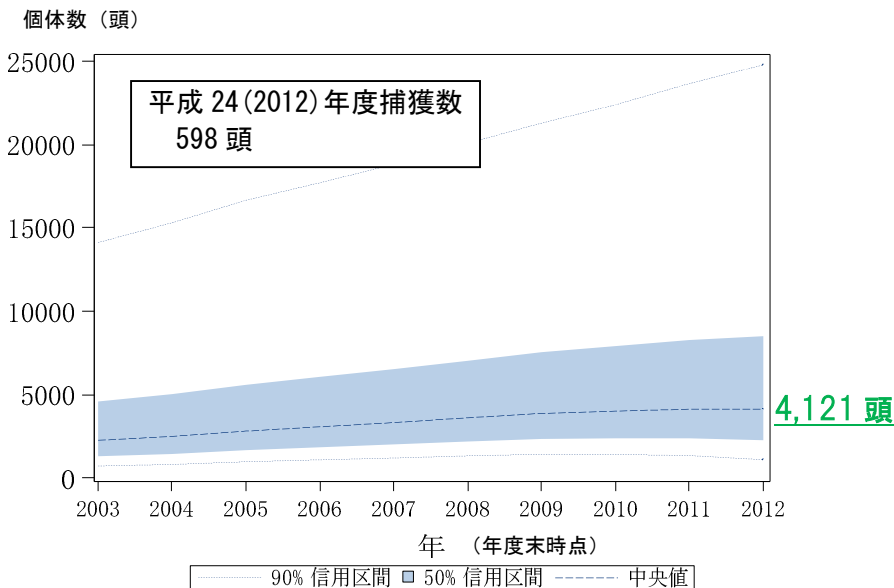
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 4,121 頭

[90%信用区間 1,081~24,769 頭]

[50%信用区間 2,248~8,486 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで香川県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

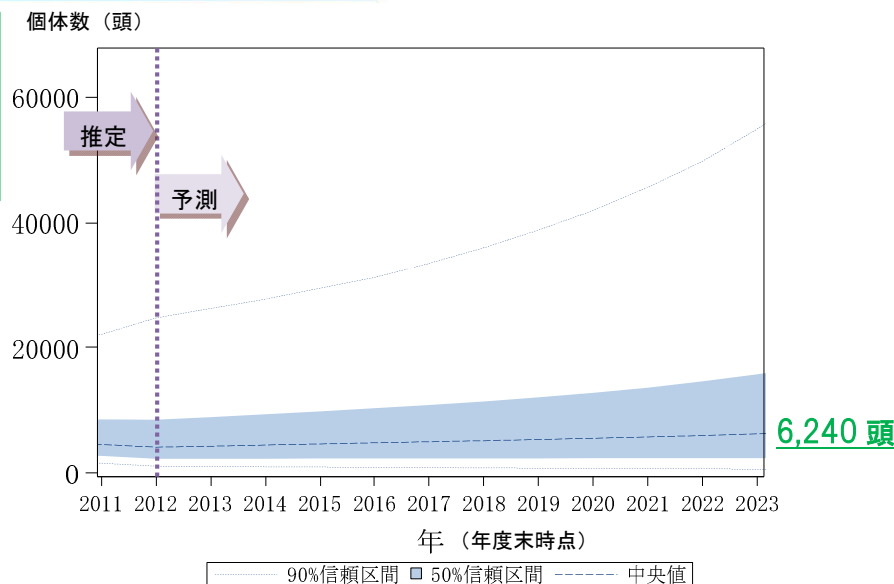
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 6,240 頭

[90%信頼区間 613~54,984 頭]

[50%信頼区間 2,373~15,763 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

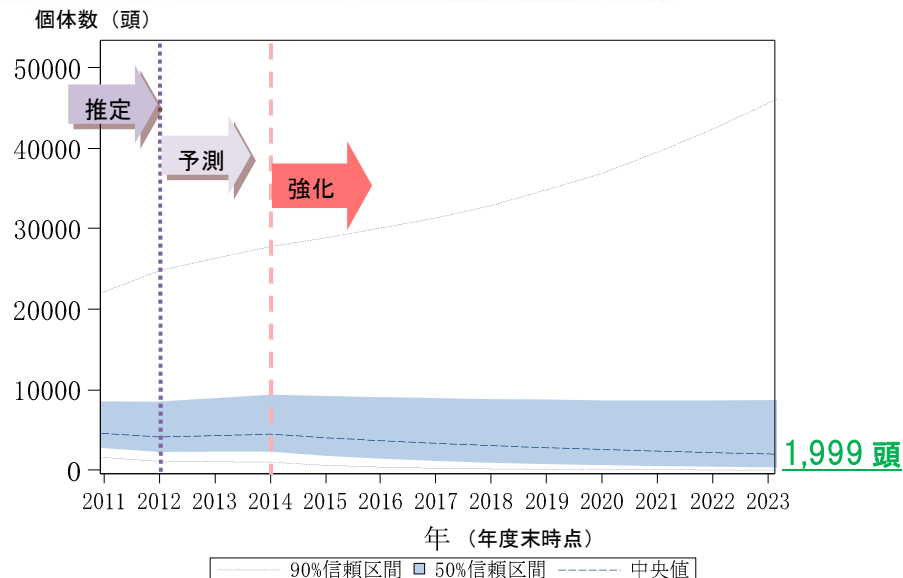
中央値 1,999 頭

[90%信頼区間 12~45,542 頭]

[50%信頼区間 329~8,673 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.2 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

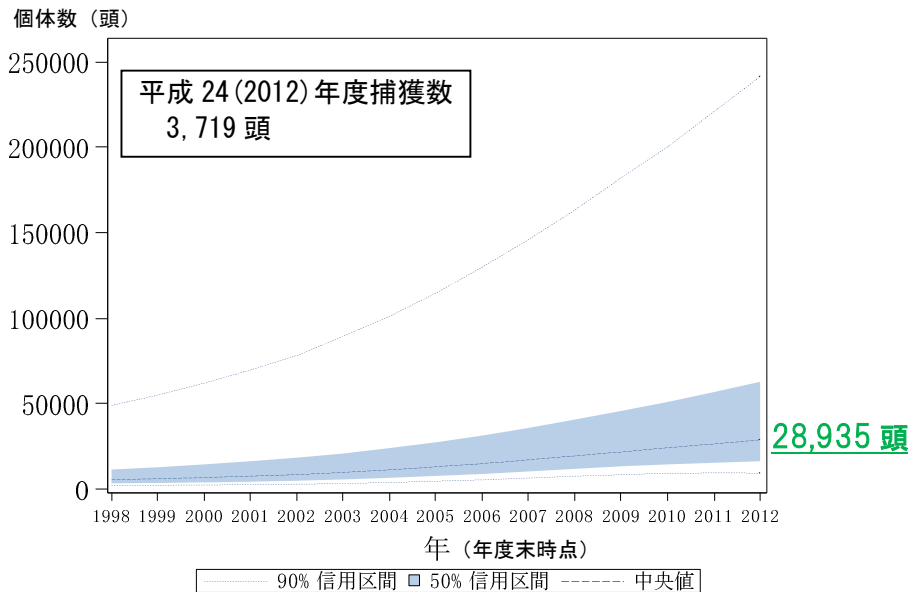
中央値 28,935 頭

[90%信用区間 9,437~241,470 頭]

[50%信用区間 16,304~62,938 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで愛媛県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 31,969 頭、90%信用区間 9,122~262,818 頭、50%信用区間 17,352~70,409 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

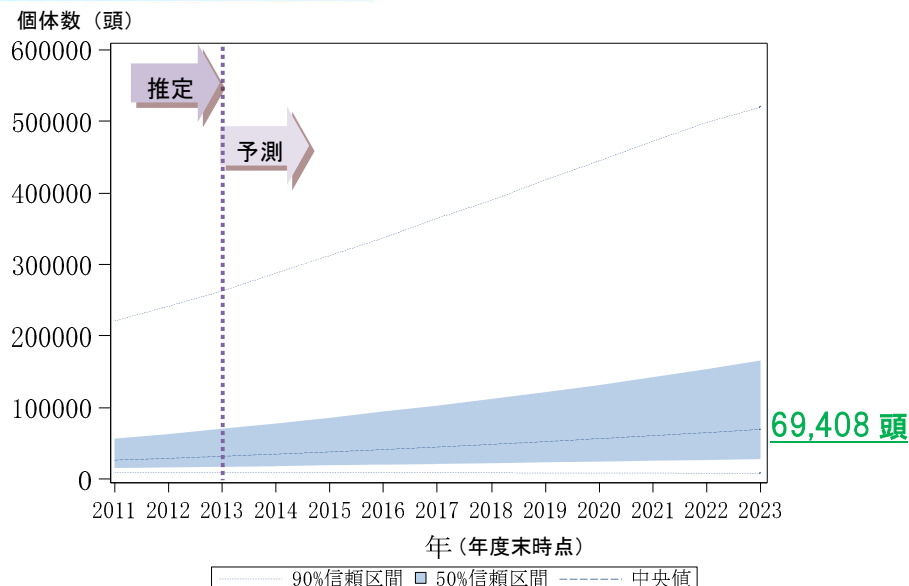
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 69,408 頭

[90%信頼区間 8,120~519,558 頭]

[50%信頼区間 27,916~165,653 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

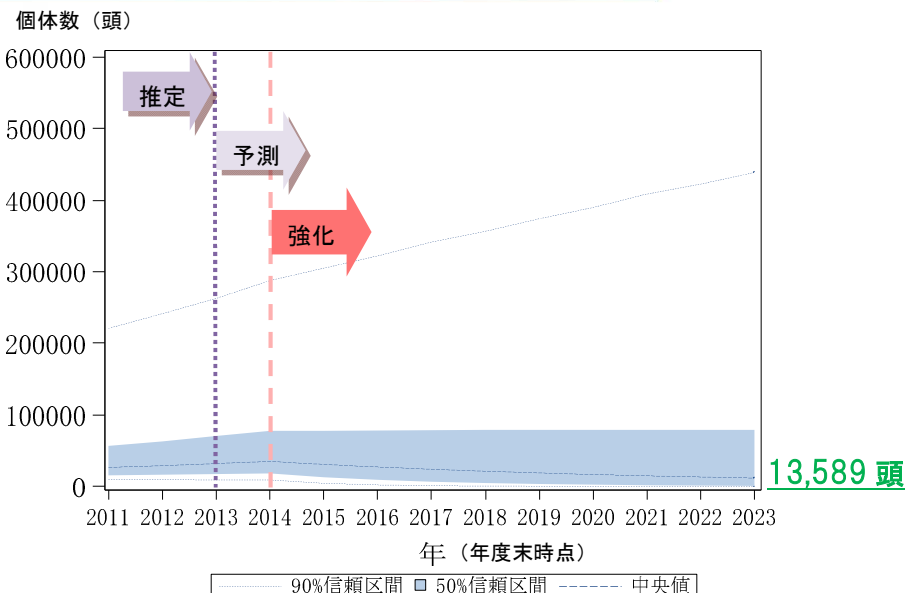
中央値 13,589 頭

[90%信頼区間 25~444,848 頭]

[50%信頼区間 1,234~83,219 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 2.3 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

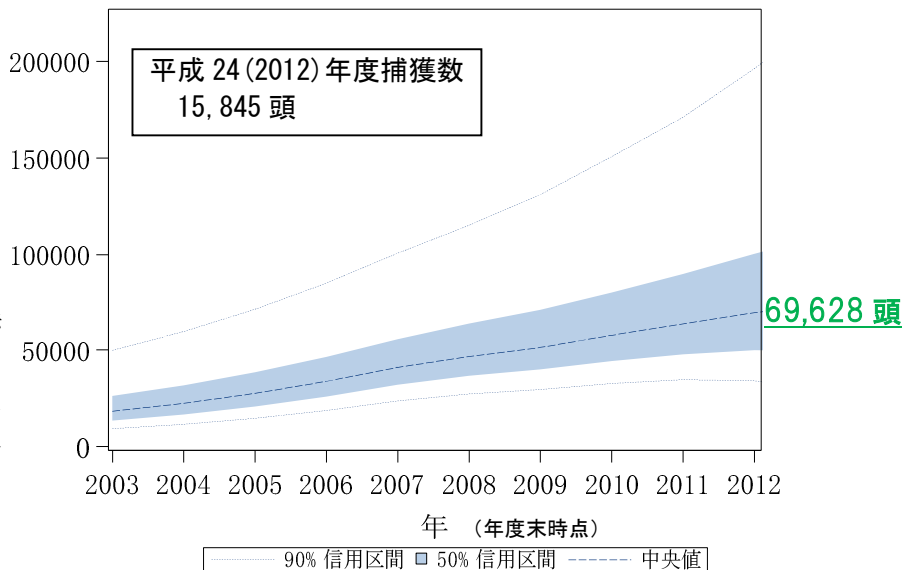
中央値 69,628 頭

[90%信用区間 34,206~196,404 頭]
[50%信用区間 50,154~100,196 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで高知県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 73,820 頭、90%信用区間 29,614~223,863 頭、50%信用区間 49,597~110,082 頭。

個体数（頭）



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

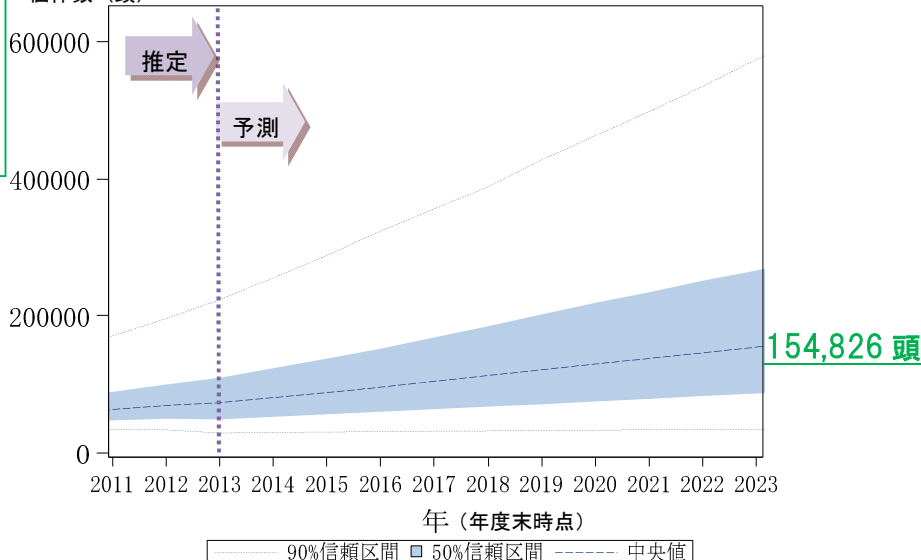
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 154,826 頭

[90%信頼区間 35,016~574,035 頭]
[50%信頼区間 87,273~266,581 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

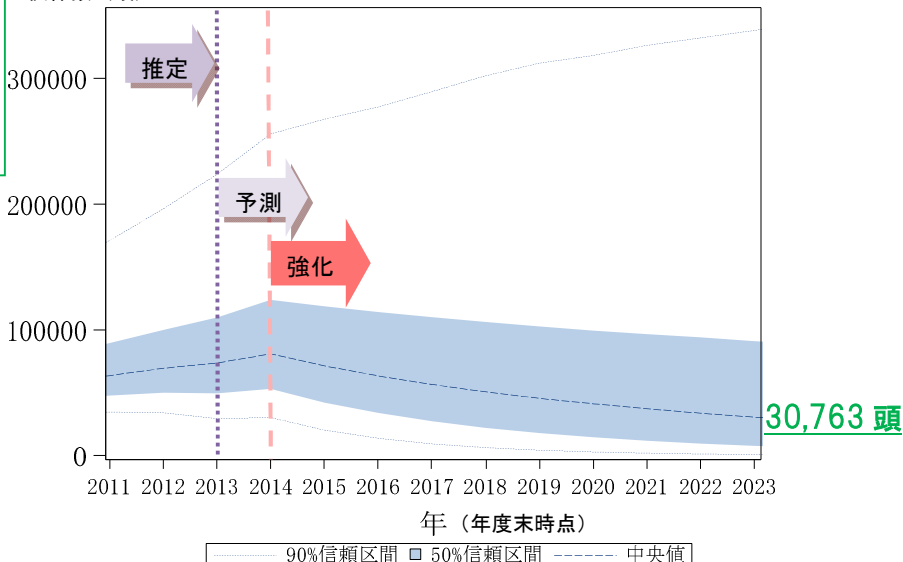
中央値 30,763 頭

[90%信頼区間 1,007~338,283 頭]
[50%信頼区間 8,027~91,217 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.9 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

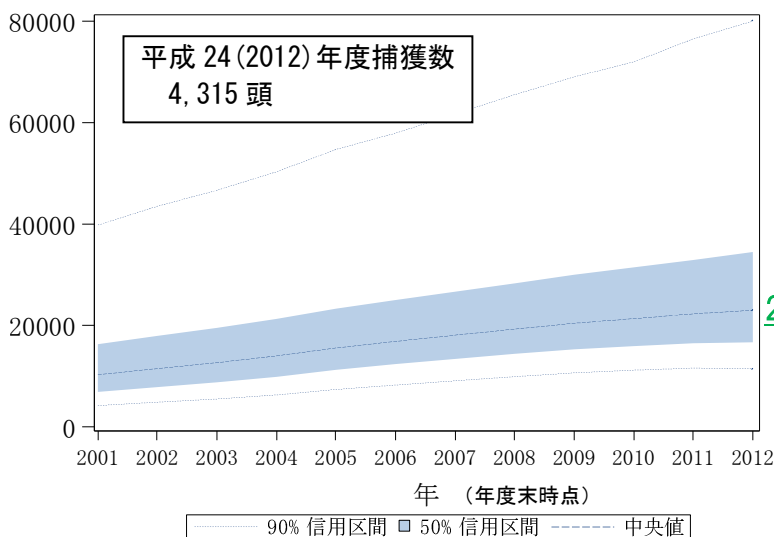
中央値 23,028 頭

90%信用区間 11,477~79,998 頭
50%信用区間 16,737~34,480 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで福岡県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 23,458 頭、90%信用区間 10,639~83,391 頭、50%信用区間 16,530~35,822 頭。

個体数（頭）



23,028 頭

2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

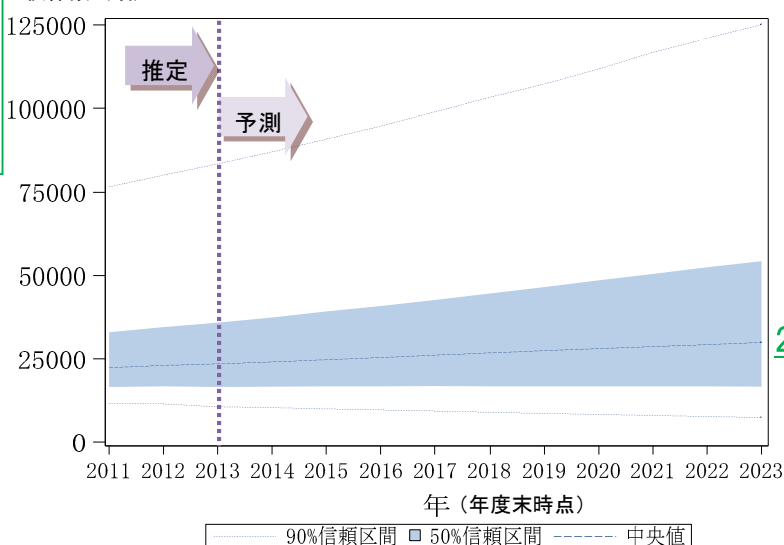
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 29,915 頭

90%信頼区間 7,404~125,055 頭
50%信頼区間 16,641~54,215 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。

個体数（頭）



29,915 頭

(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

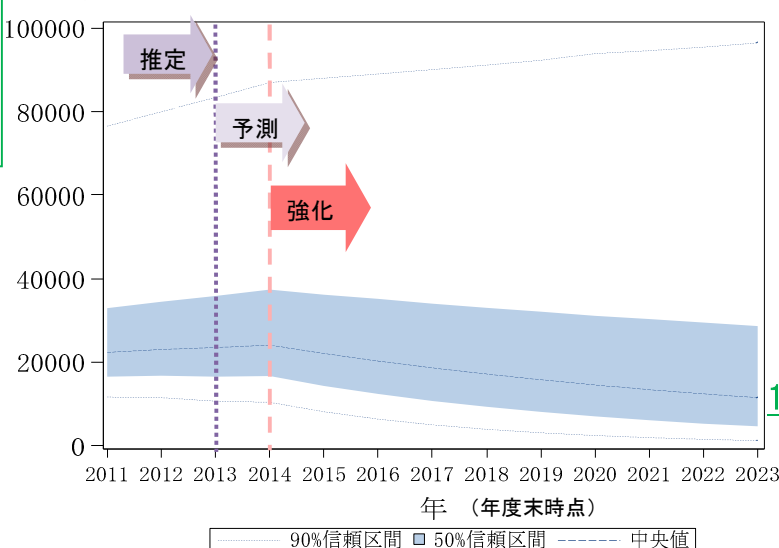
中央値 11,463 頭

90%信頼区間 1,180~96,484 頭
50%信頼区間 4,598~28,660 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.6 倍を維持すると半減すると予測された。

個体数（頭）



11,463 頭



1. 個体数推定の結果

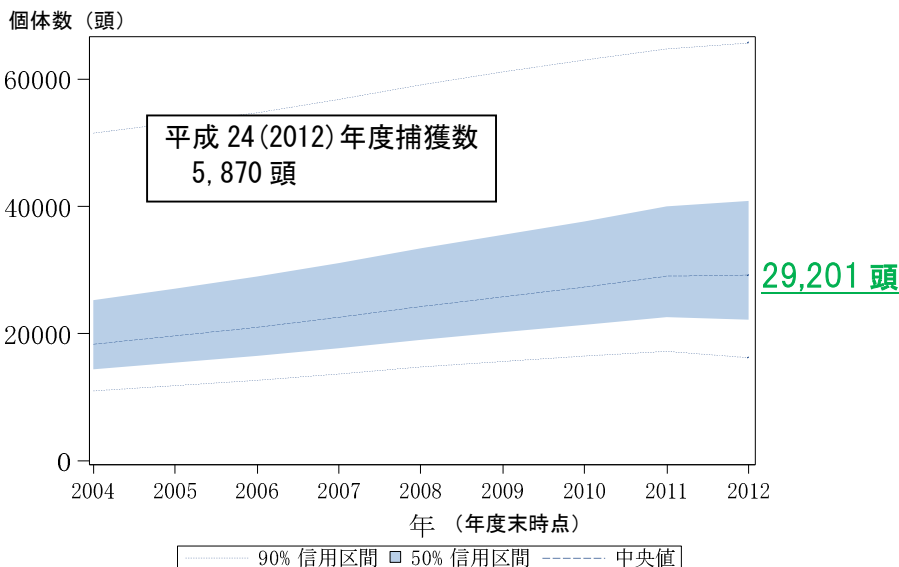
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 29,201 頭

[90%信用区間 16,222~65,646 頭]
[50%信用区間 22,210~40,839 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで長崎県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 28,347 頭、90%信用区間 13,949~65,245 頭、50%信用区間 20,720~40,642 頭。



2. 将来予測の結果

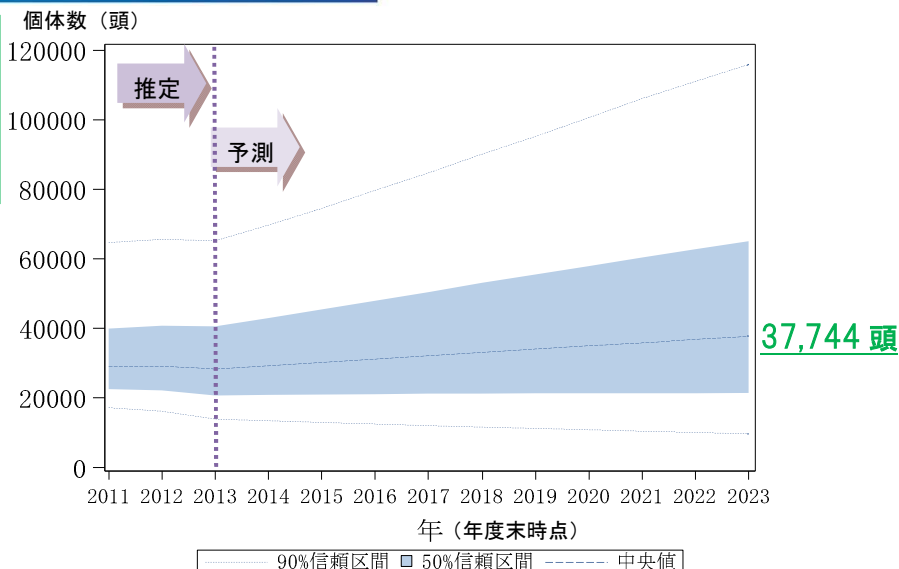
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 37,744 頭

[90%信頼区間 9,697~115,929 頭]
[50%信頼区間 21,480~65,103 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

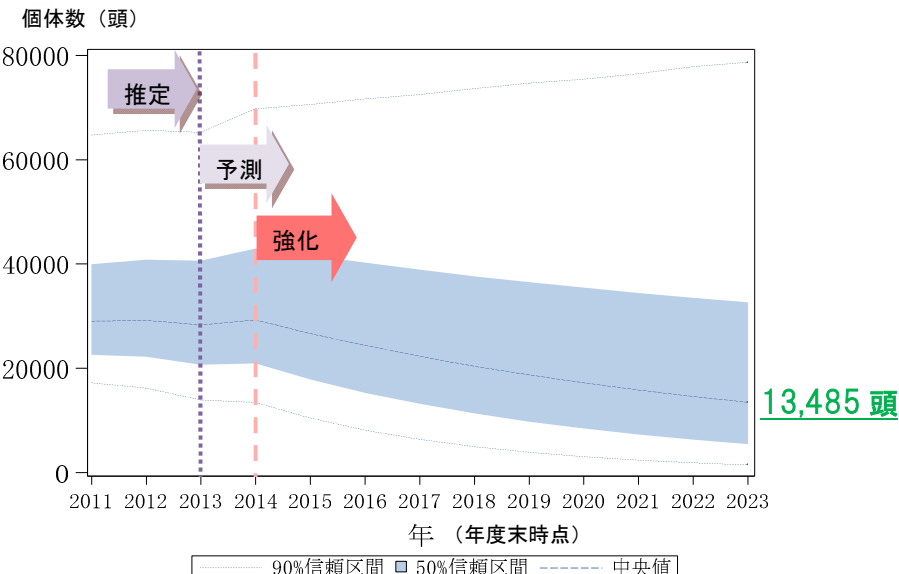
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 13,485 頭

[90%信頼区間 1,491~78,692 頭]
[50%信頼区間 5,477~32,687 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.7 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

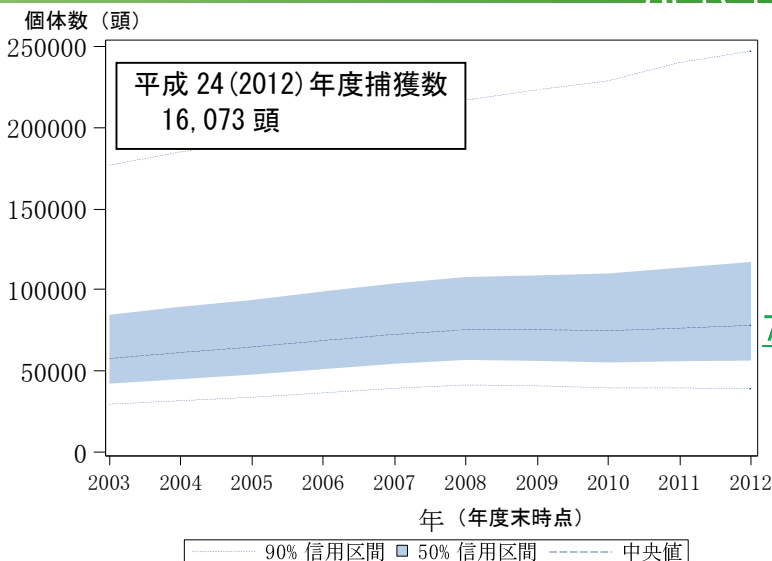
中央値 78,147 頭

[90%信用区間 39,036~247,102 頭]

[50%信用区間 56,415~117,297 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで熊本県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 78,961 頭、90%信用区間 36,445~255,832 頭、50%信用区間 55,435~121,178 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

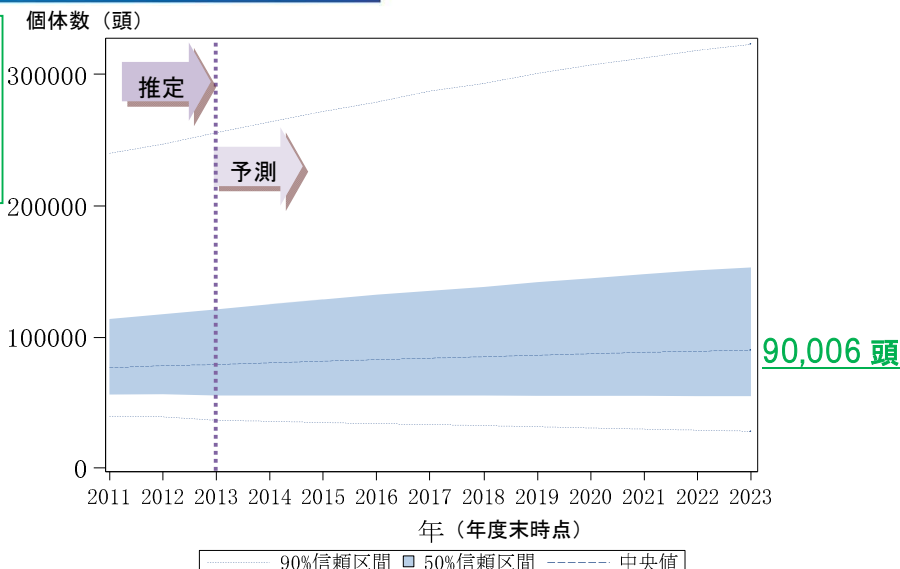
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 90,006 頭

[90%信頼区間 28,092~323,235 頭]

[50%信頼区間 54,804~153,107 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

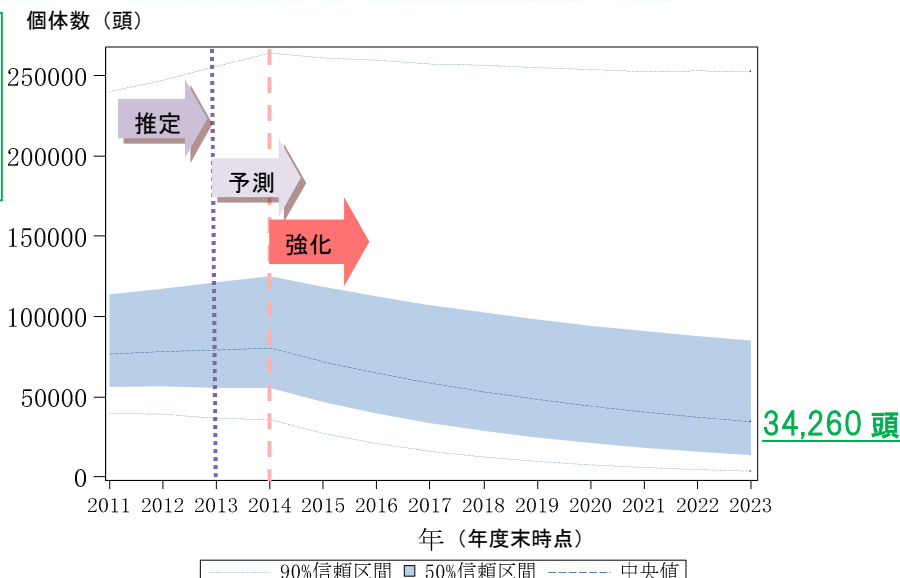
中央値 34,260 頭

[90%信頼区間 3,525~252,566 頭]

[50%信頼区間 13,526~84,906 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.6 倍を維持すると半減すると予測された。





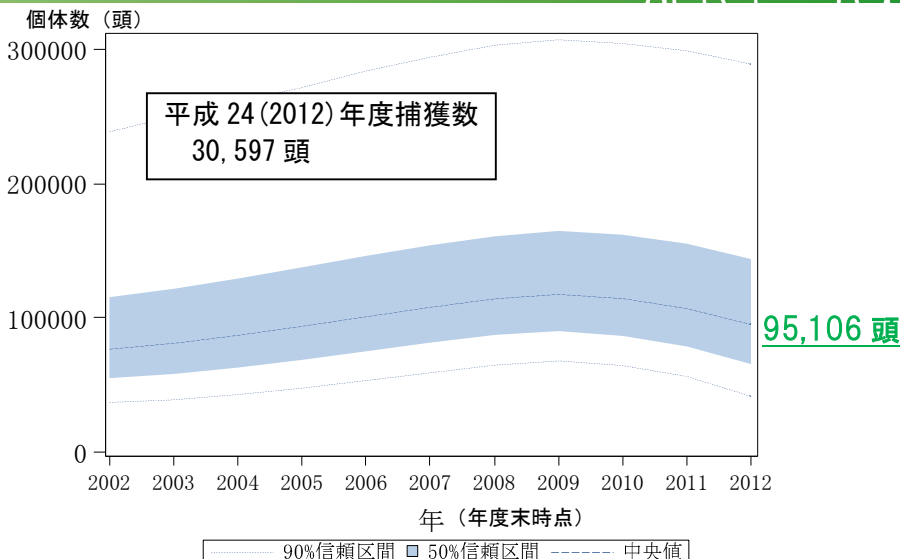
1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 95,106 頭

[90%信頼区間 41,745~288,978 頭]
[50%信頼区間 65,709~143,792 頭]

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで大分県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。



2. 将来予測の結果

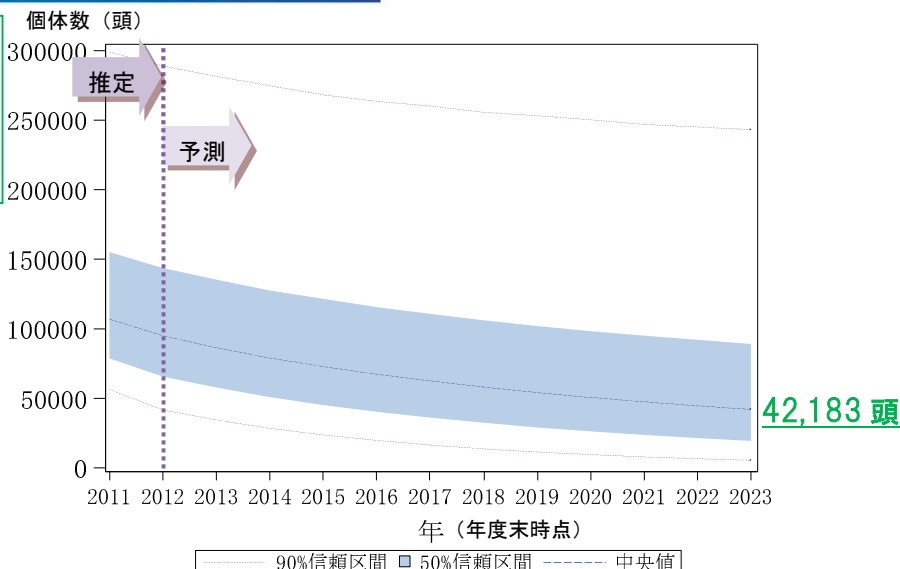
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 42,183 頭

[90%信頼区間 5,613~243,133 頭]
[50%信頼区間 19,412~89,200 頭]

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

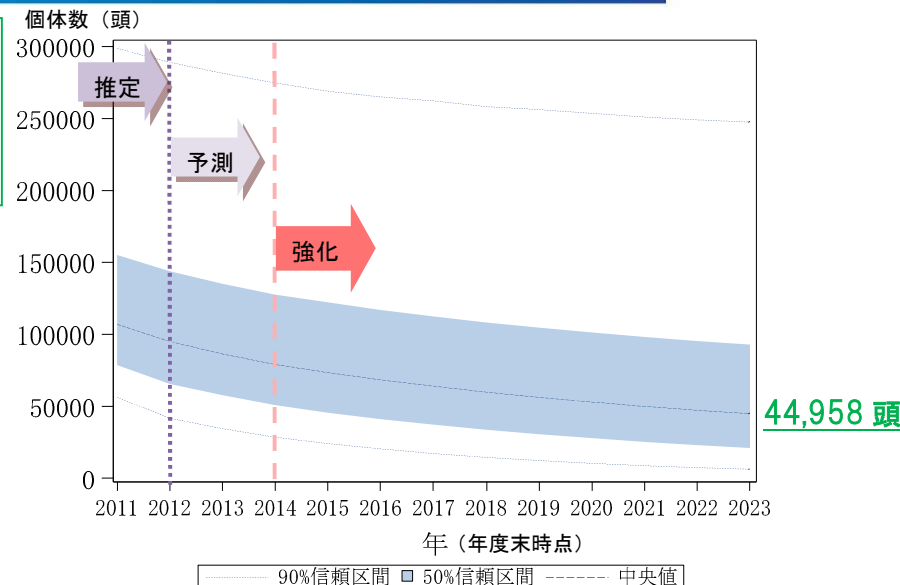
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 44,958 頭

[90%信頼区間 6,365~247,557 頭]
[50%信頼区間 21,231~92,919 頭]

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 0.97 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

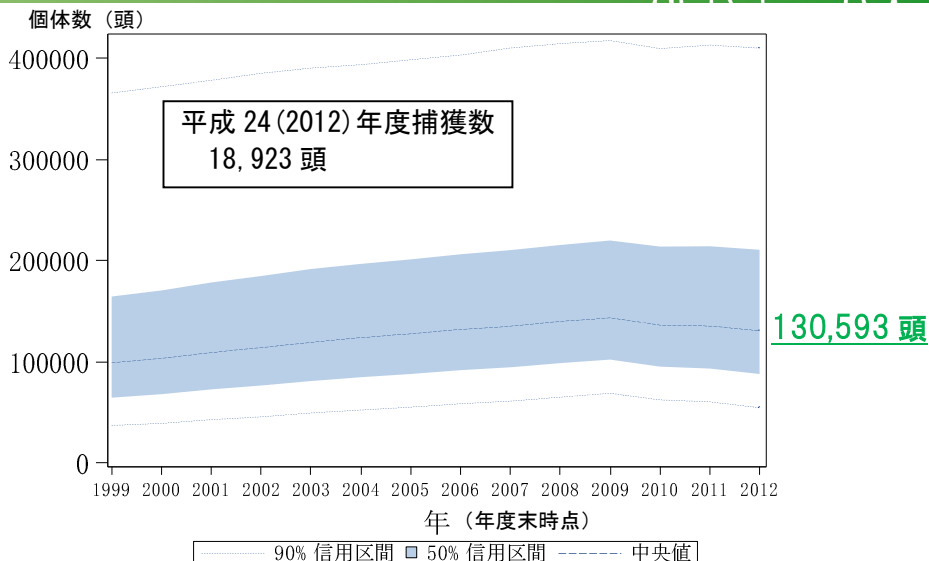
➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

中央値 130,593 頭

90%信用区間 54,514~409,938 頭
50%信用区間 88,025~210,693 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで宮崎県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 124,923 頭、90%信用区間 45,077~407,703 頭、50%信用区間 80,831~206,180 頭。



2. 将来予測の結果

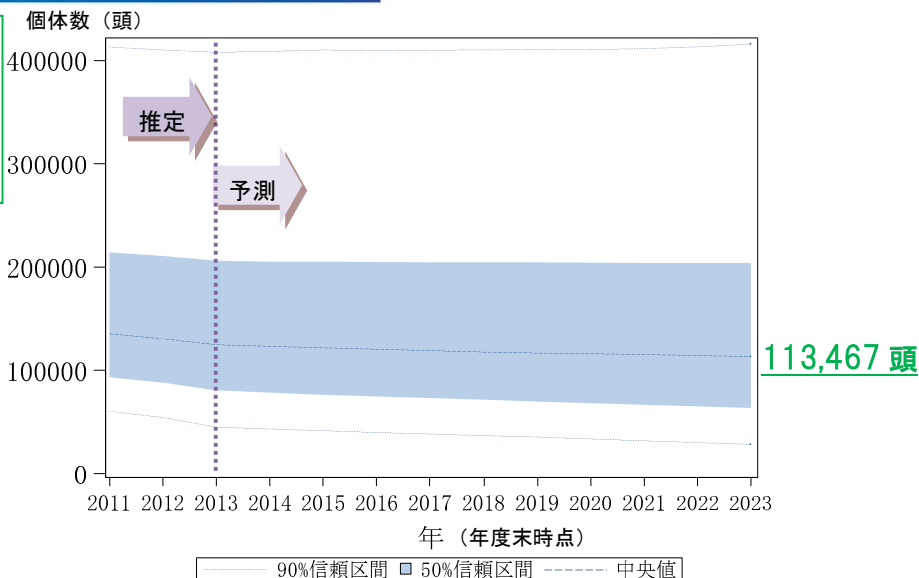
(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率注を維持する場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 113,467 頭

90%信頼区間 28,512~415,605 頭
50%信頼区間 63,770~203,827 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

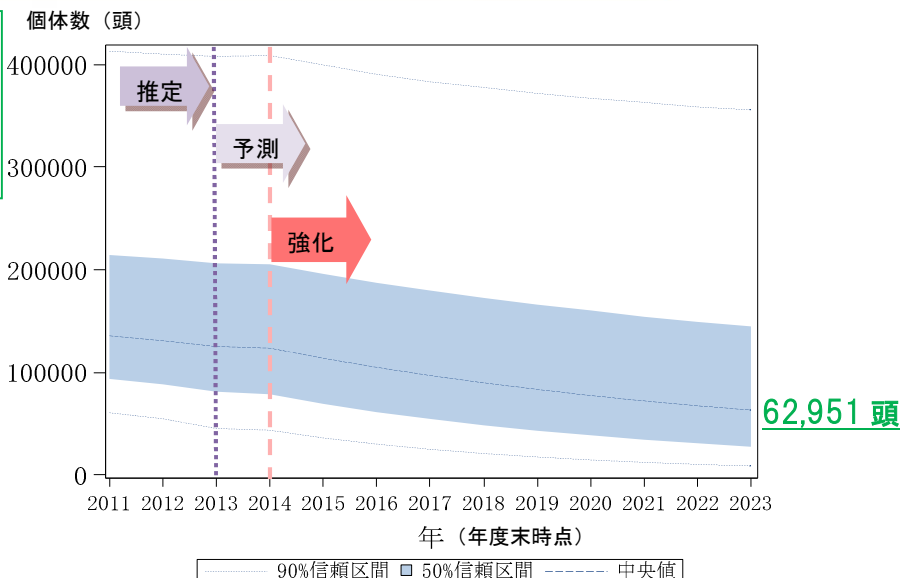
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 62,951 頭

90%信頼区間 8,439~355,658 頭
50%信頼区間 27,393~144,703 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.6 倍を維持すると半減すると予測された。





1. 個体数推定の結果

➤ 平成 24(2012)年度末の推定個体数

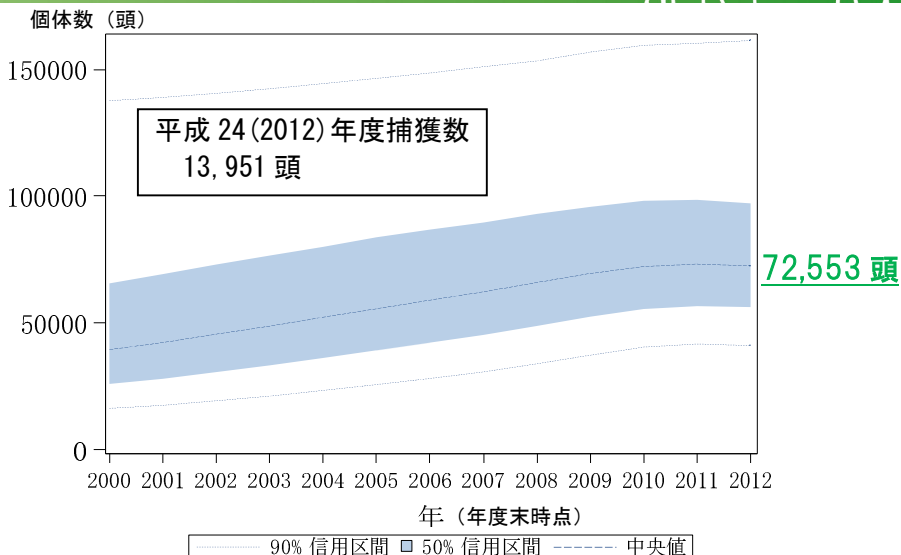
中央値 72,553 頭

90%信用区間 41,102~161,179 頭

50%信用区間 56,283~97,168 頭

※「階層ベイズモデル」による推定結果（これまで鹿児島県で採用していた方法とは異なる推定法による結果であることに留意が必要）。

※参考：平成 25(2013)年度末の推定個体数は、中央値で 69,407 頭、90%信用区間 37,649~158,906 頭、50%信用区間 53,049~93,409 頭。



2. 将来予測の結果

(1) 現行（平成 23(2011)年度）の捕獲率^注を維持する場合

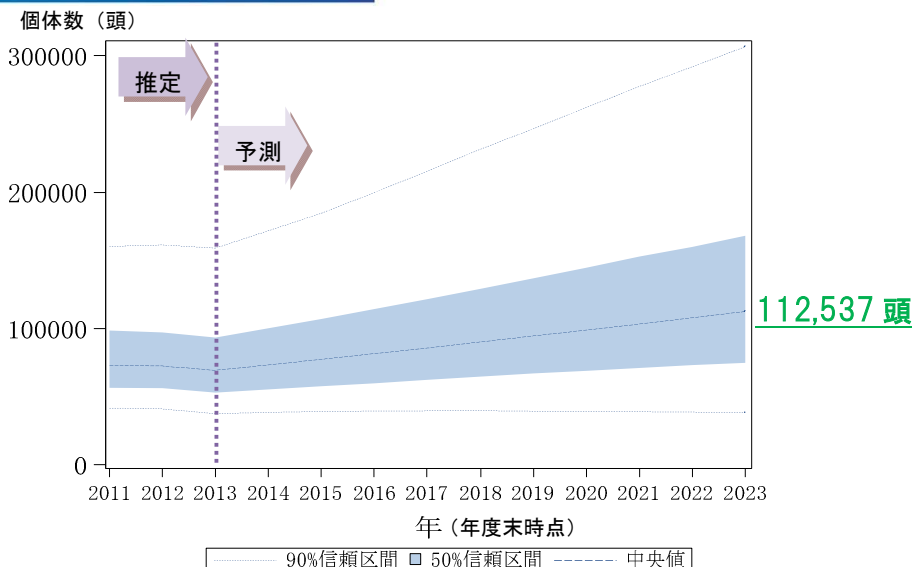
➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 112,537 頭

90%信頼区間 38,476~306,573 頭

50%信頼区間 74,992~168,004 頭

注：「捕獲率」とは、推定個体数に対する捕獲数の割合を指す。



(2) 平成 35(2023)年度に現行（平成 23(2011)年度）の個体数を半減させる場合

➤ 平成 35(2023)年度の推定個体数

中央値 33,873 頭

90%信頼区間 4,980~185,207 頭

50%信頼区間 16,193~69,504 頭

※全国目標（平成 35(2023)年度に平成 23(2011)年度の個体数から半減）と同じく、県で半減させるシナリオで予測を実施。改正鳥獣法が施行される平成 27(2015)年度当初から対策を強化すると仮定。

結果 平成 23(2011)年度の捕獲率の 1.7 倍を維持すると半減すると予測された。

